

あま市都市計画マスタープラン

<参考資料①>

目次

《第2章 あま市のこれまでの都市づくり》

- 1 位置・成り立ち・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 都市の現況の調査分析・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 本市が抱える都市づくりの課題・・・・・・・・・・ 57

第2章

あま市のこれまでの都市づくり

1 位置・成り立ち

(1) 広域的成り立ち

本市は愛知県の西部に位置しており、周辺を名古屋市、清須市、稲沢市、愛西市、津島市、大治町、蟹江町の5市2町と隣接しています。市域は東西約 7.9km、南北約 7.8km で面積は約 2,749ha となっています。

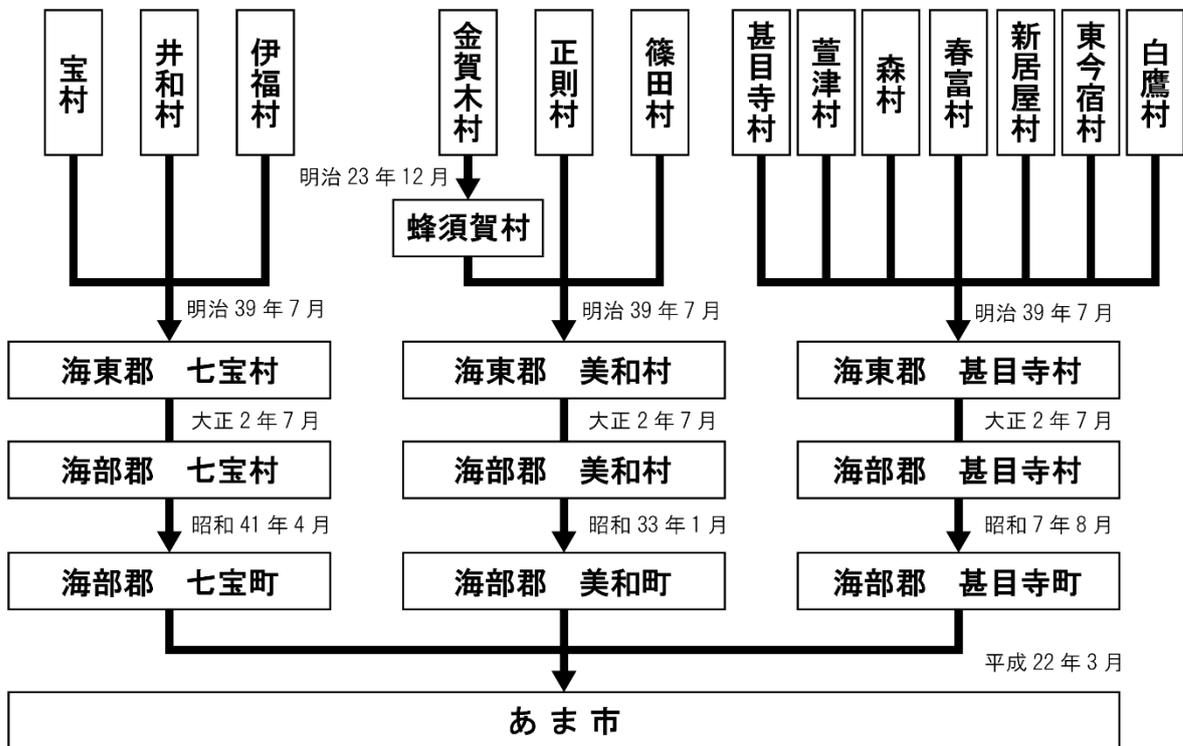
また、本市は一級河川の庄内川を挟んで名古屋市と隣接しており、名古屋市中心部から鉄道や路線バスなどの公共交通機関で約 15～30 分という立地条件である他、名古屋第二環状自動車道や東名阪自動車道といった高規格道路が市域を通過するなど、交通利便性の高さから近年では名古屋市等のベッドタウンとしても発展しています。



■ 広域的な位置

(2) 広域的成り立ち

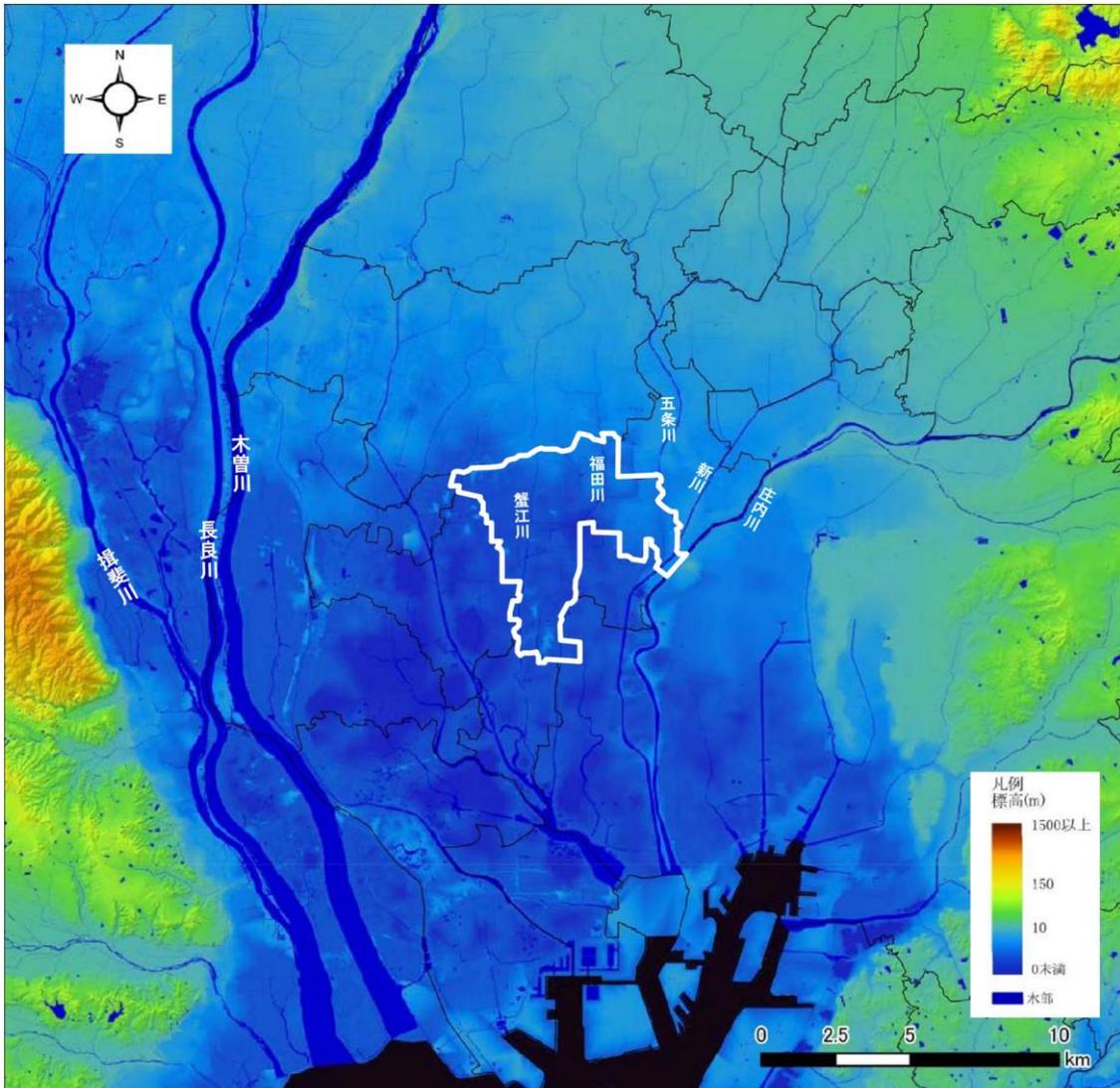
本市は平成の大合併が全国各地で進む中、海部東部地域においても平成 14(2002)年から市町村合併についての議論が進み、平成 22(2010)年 3月 22日に旧七宝町、旧美和町及び旧甚目寺町の 3 町が合併し、県内で 37 番目の市として本市が誕生しました。



■本市の沿革

(3) 地形

本市の地形は、ほぼ全域が海拔ゼロメートル以下となっており、平坦な地形の中で庄内川、新川、五条川、福田川、蟹江川など多くの河川が南北に流れ、伊勢湾に注いでいます。



資料：国土地理院 デジタル標高地形図【愛知県】技術資料番号：D1-No. 965

■あま市周辺の地形

2 都市の現況の調査分析

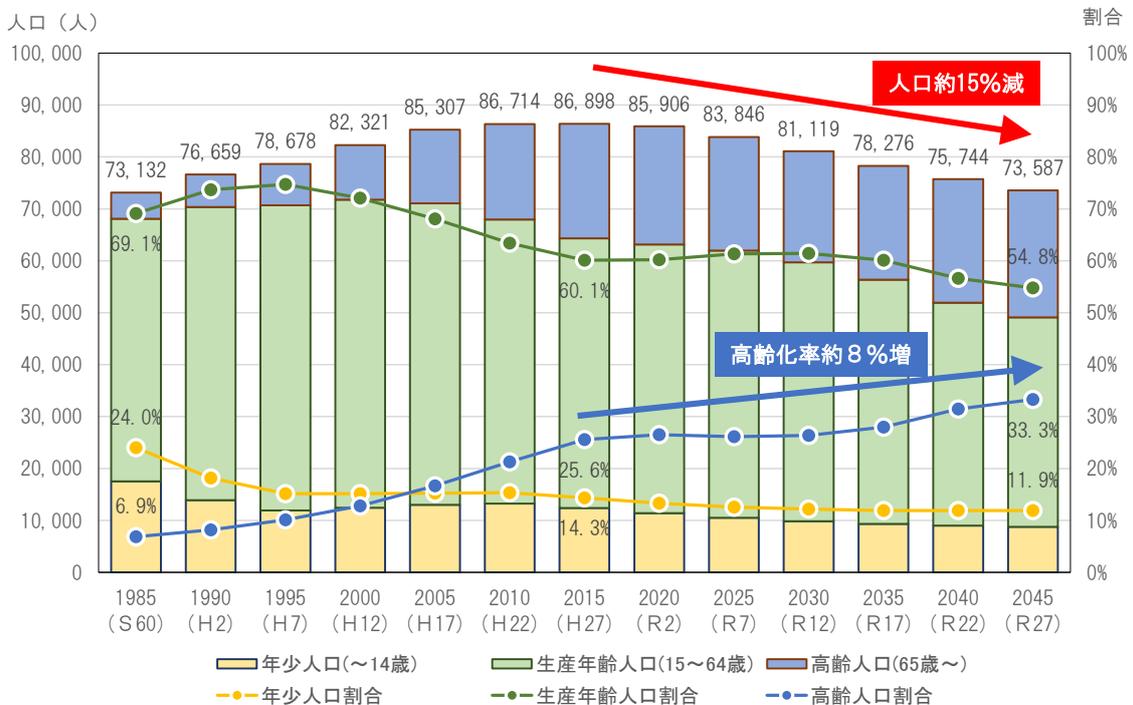
(1) 人口及び世帯数

①人口推移

本市の人口は、住民基本台帳によると令和2（2020）年時点で89,003人となっており、依然増加傾向にあります。しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計では、平成27（2015）年以降は徐々に減少に転じるとされており、令和27（2045）年には約73,600人と社人研推計のピーク時人口である86,898人から約15%減少すると予測されています。

また、高齢化率は年々増加傾向にあり、平成27（2015）年時点では約26%、令和27（2045）年には約33%まで上昇すると予測されています。

■人口推移と将来人口



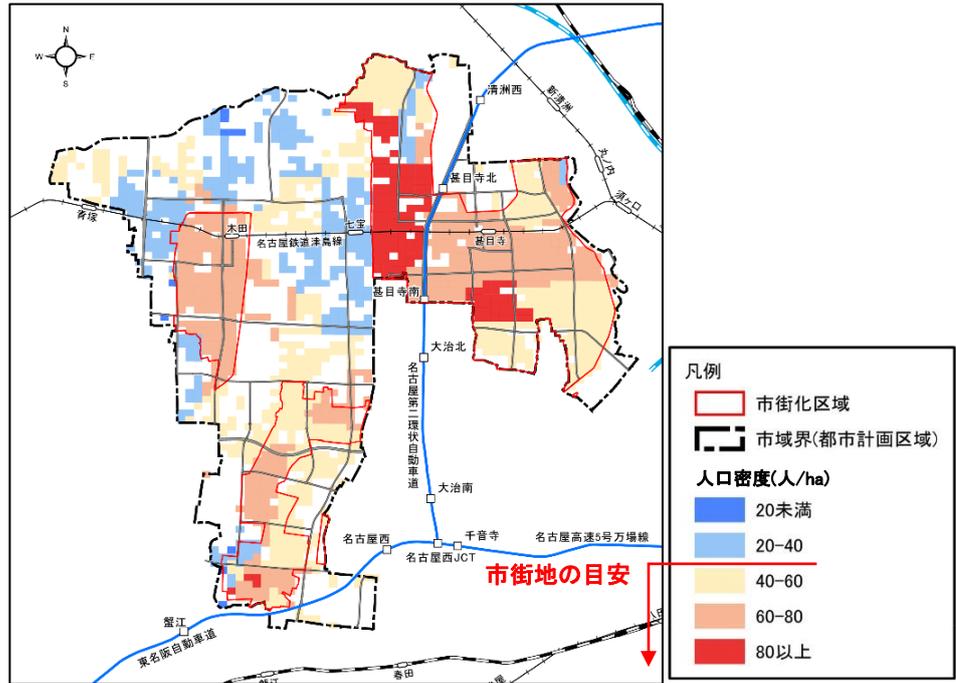
資料：平成27（2015）年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

②人口密度

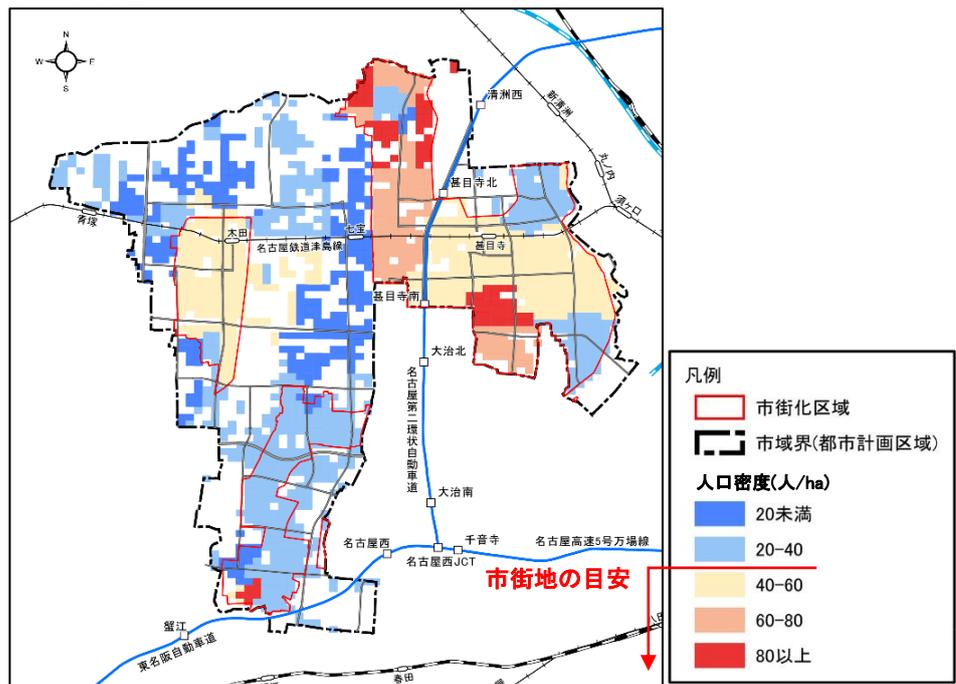
本市の人口密度は、平成 27（2015）年では市街化区域の内、一部の地区を除いて市街地の目安となる 40 人/ha を上回るエリアが広がっています。

しかしながら、令和 27（2045）年の推計では市街化区域の内、市域南部のほぼ全域及び旧基目寺町の一部エリアで 40 人/ha を下回ることが予測されています。

【平成 27（2015）年の人口密度】



【令和 27（2045）年の人口密度】



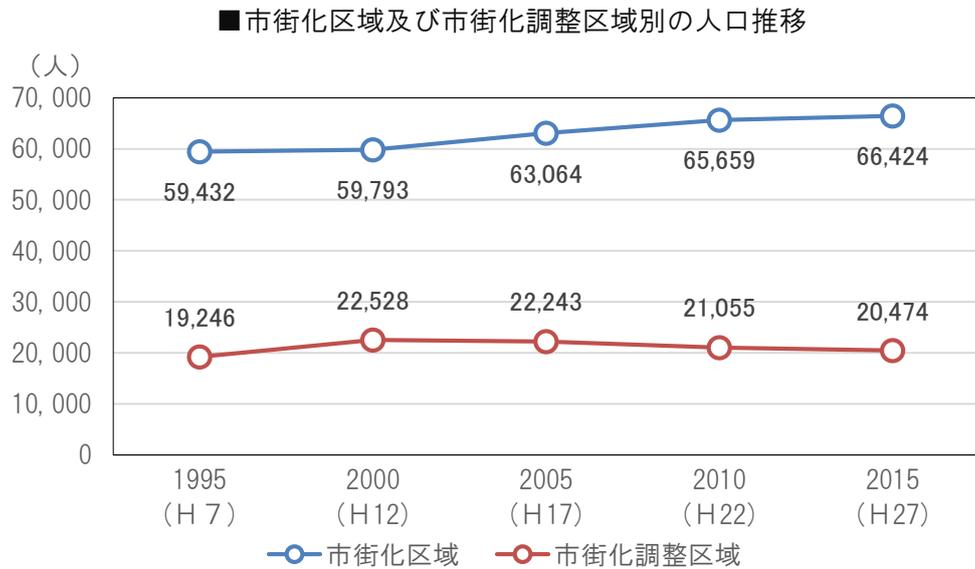
■人口密度分布

資料：「将来人口・世帯予測ツール V2」（国土交通省 国土技術政策総合研究所）

③市街化区域及び市街化調整区域の人口推移

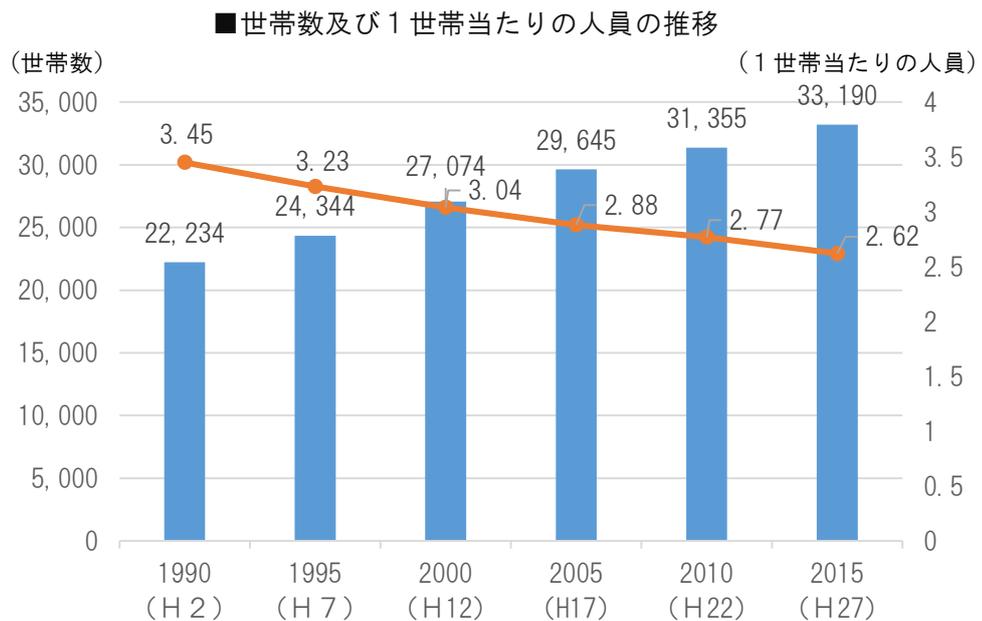
本市の市街化区域内の人口は、平成 7（1997）年以降増加傾向にあり、平成 27（2015）年時点では 66,424 人とこの 20 年間で約 7,000 人増加しています。

一方、市街化調整区域の人口は、平成 12（2000）年の 22,528 人をピークに徐々に減少傾向にあります。平成 7（1997）年からの 20 年間で約 1,200 人増加しています。



④世帯数の推移

世帯数は一貫して増加傾向にあります。1 世帯当たりの人員は減少しています。

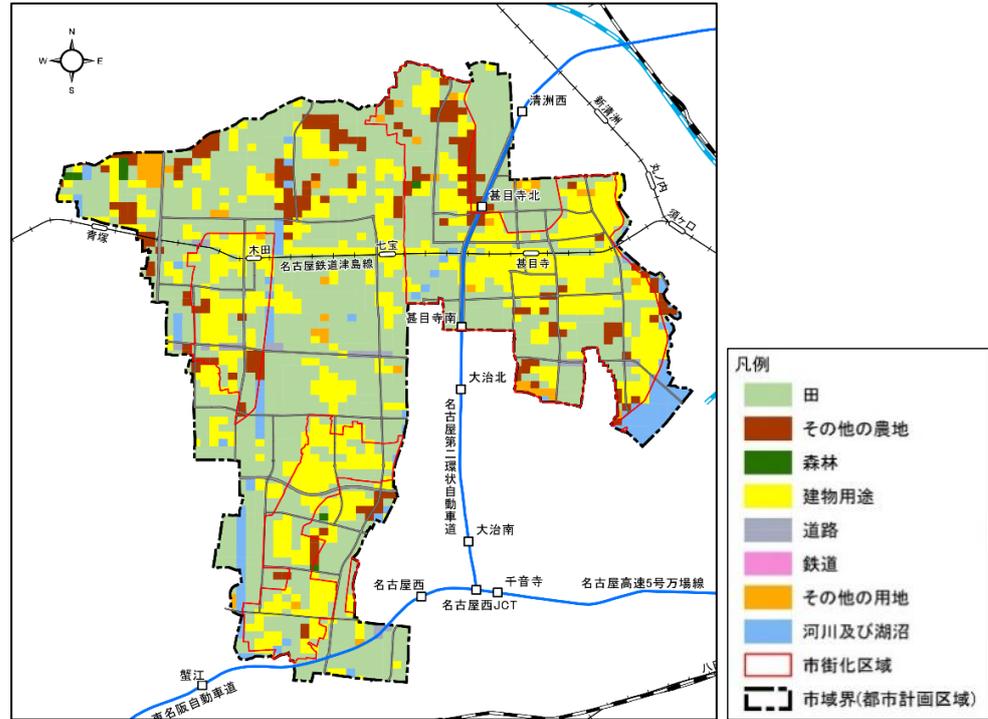


(2) 土地利用

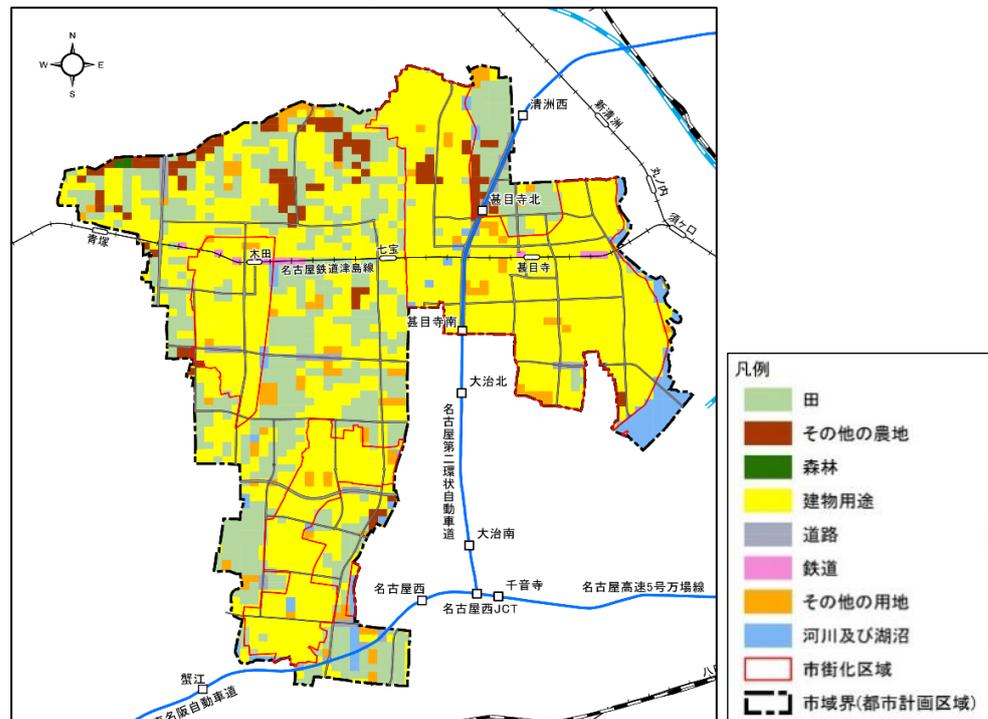
①土地利用の変遷

本市の土地利用については、昭和 51（1976）年から平成 28（2016）年までの 40 年間で、市街化区域の内外に係わらず「田」から「建物用途」に変化していることから、自然的土地利用から都市的土地利用への転換が進んでいます。

【昭和 51（1976）年の土地利用】



【平成 28（2016）年の土地利用】



■土地利用の変遷

資料：国土数値情報「土地利用細分メッシュ」

②土地利用の現況

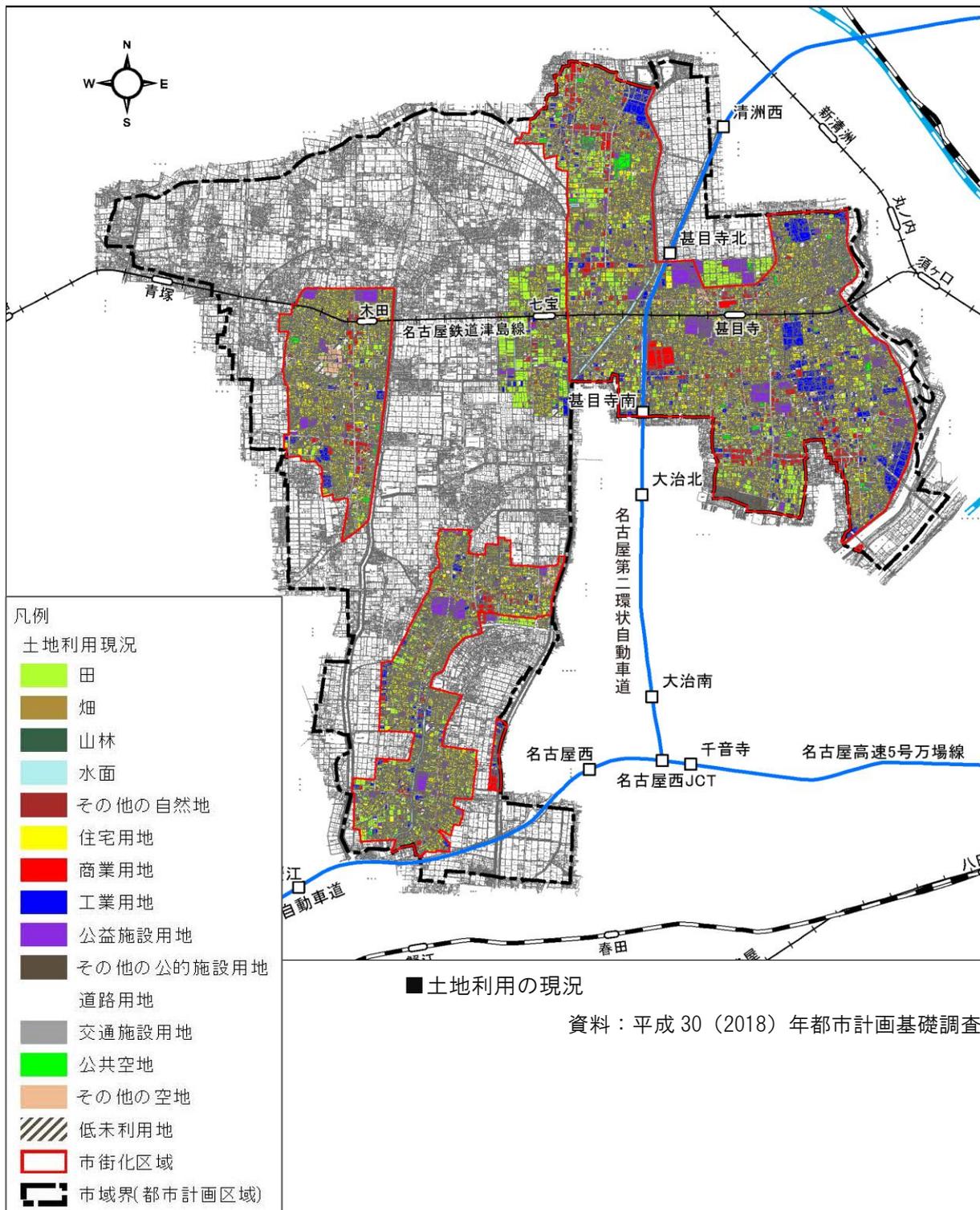
本市の土地利用分類別の面積は、住宅用地が全体の約 41%、商業用地が 5%、工業用地が約 7%となっています。

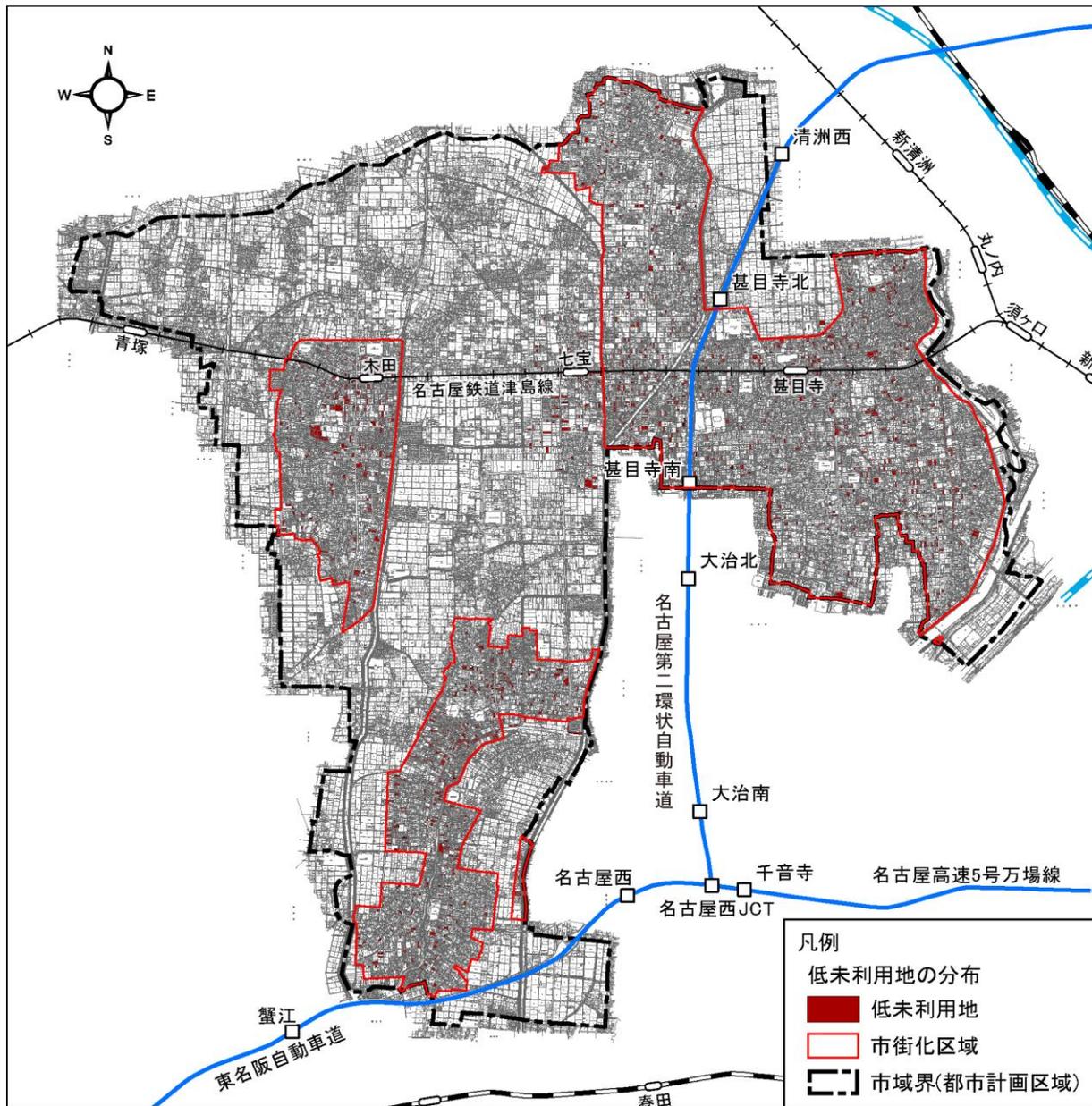
また、農地（田、畑）や低未利用地も市街地全体に一様に分布しており、全体の約 20%を占めています。

■土地利用分類別の面積

		面積			割合			
		市街化 区域 (ha)	市街化 想定区域 (ha)	合計 (ha)	市街化 区域 (ha)	市街化 想定区域 (ha)	合計 (ha)	
自然的 土地利用	農地	田	66.26	36.84	103.10	5.8%	33.5%	8.2%
		畑	66.01	7.33	73.34	5.7%	6.7%	5.8%
	山林	0.48	0.04	0.52	0.0%	0.0%	0.0%	
	水面	23.76	3.52	27.28	2.1%	3.2%	2.2%	
	その他の自然地	18.84	2.80	21.64	1.6%	2.5%	1.7%	
都市的 土地利用	住宅用地	492.27	24.36	516.63	42.8%	22.1%	41.0%	
	商業 用地	1 ha以上の 商業施設用地	61.55	2.12	63.67	5.4%	1.9%	5.1%
		7.31	0.00	7.31	0.6%	0.0%	0.6%	
	工業 用地	工業専用 地域面積	78.66	4.40	83.06	6.8%	4.0%	6.6%
		0.00	0.00	0.00	0.0%	0.0%	0.0%	
	公的・公益用地	66.59	7.75	74.34	5.8%	7.0%	5.9%	
	道路用地	184.28	13.59	197.87	16.0%	12.4%	15.7%	
	交通施設用地	4.20	0.61	4.81	0.4%	0.6%	0.4%	
	公共空地	13.89	0.84	14.73	1.2%	0.8%	1.2%	
	その他の空地	6.45	0.33	6.78	0.6%	0.3%	0.5%	
低未利用地	66.06	5.48	71.54	5.7%	5.0%	5.7%		
総計		1,149.30	110.01	1,259.31	100.0%	100.0%	100.0%	
可住地		830.43	80.90	911.33	72.3%	73.5%	72.4%	
非可住地		318.87	29.11	347.98	27.7%	26.5%	27.6%	

資料：平成 30（2018）年都市計画基礎調査





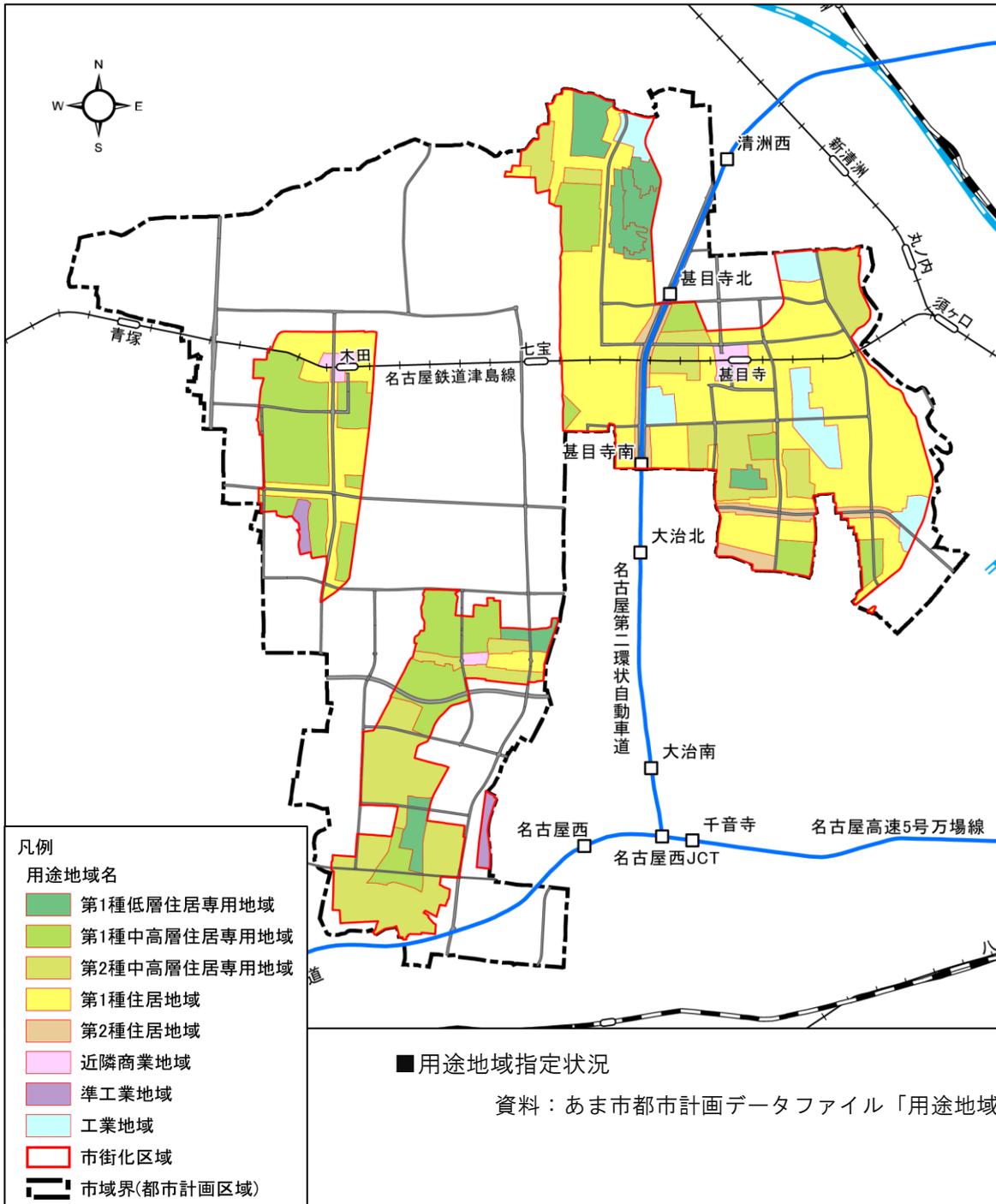
■ 低未利用地の分布

資料：平成 30（2018）年都市計画基礎調査

③用途地域指定状況

本市の市街化区域の面積は 1,150ha（市域の約 42%）となっています。この内、大部分が住宅系の用途地域に指定されており、

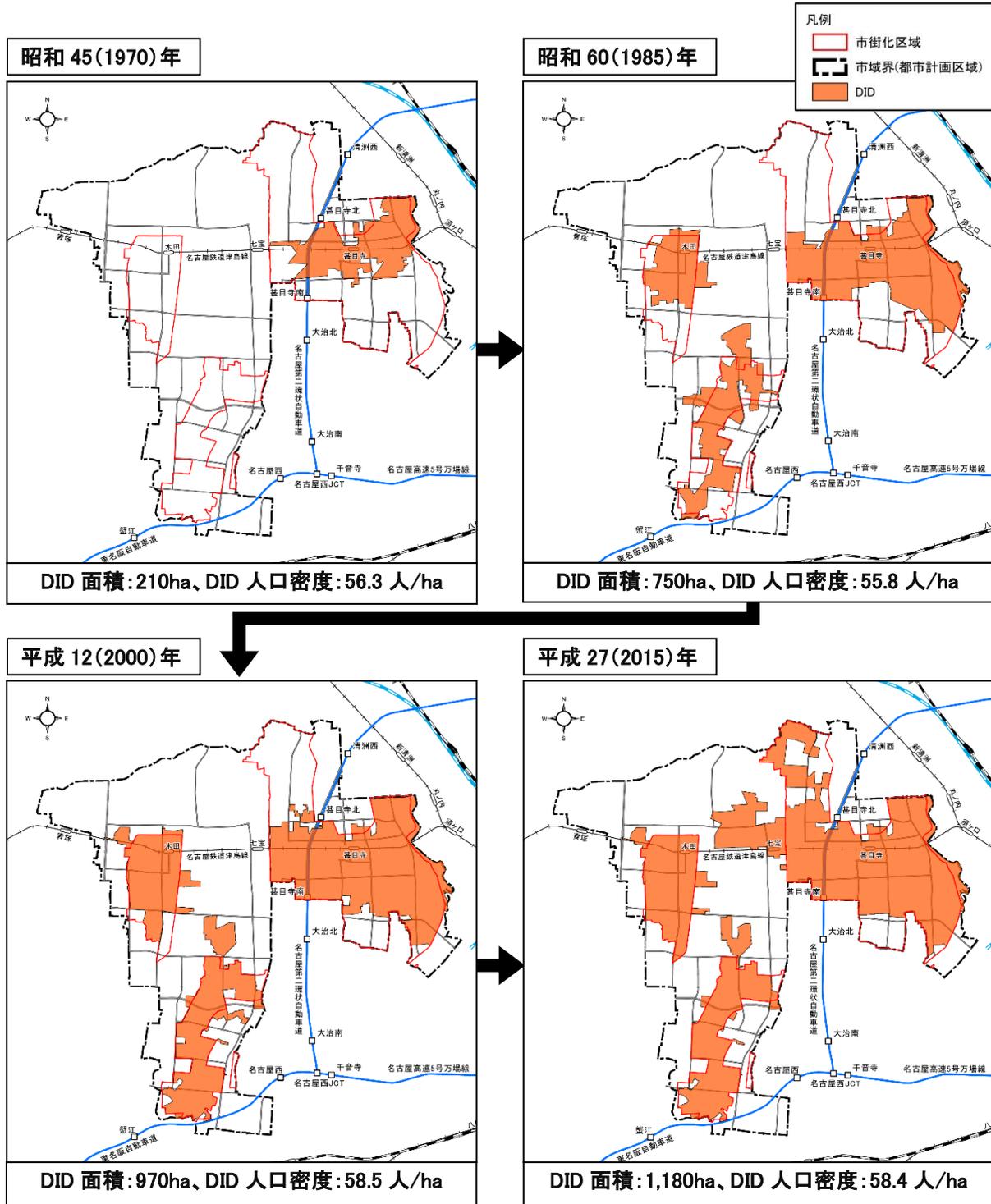
この他、甚目寺駅周辺及び木田駅周辺で近隣商業地域、旧美和町エリア及び旧七宝町エリアの一部地区が準工業地域、旧甚目寺町エリアの名古屋第二環状自動車道沿道の一部地区が工業地域に指定されています。



④人口集中地区（D I D）

本市の人口集中地区（D I D）は、昭和 45（1970）年から平成 27（2015）年までの 45 年間で 6 倍近く拡大しています。

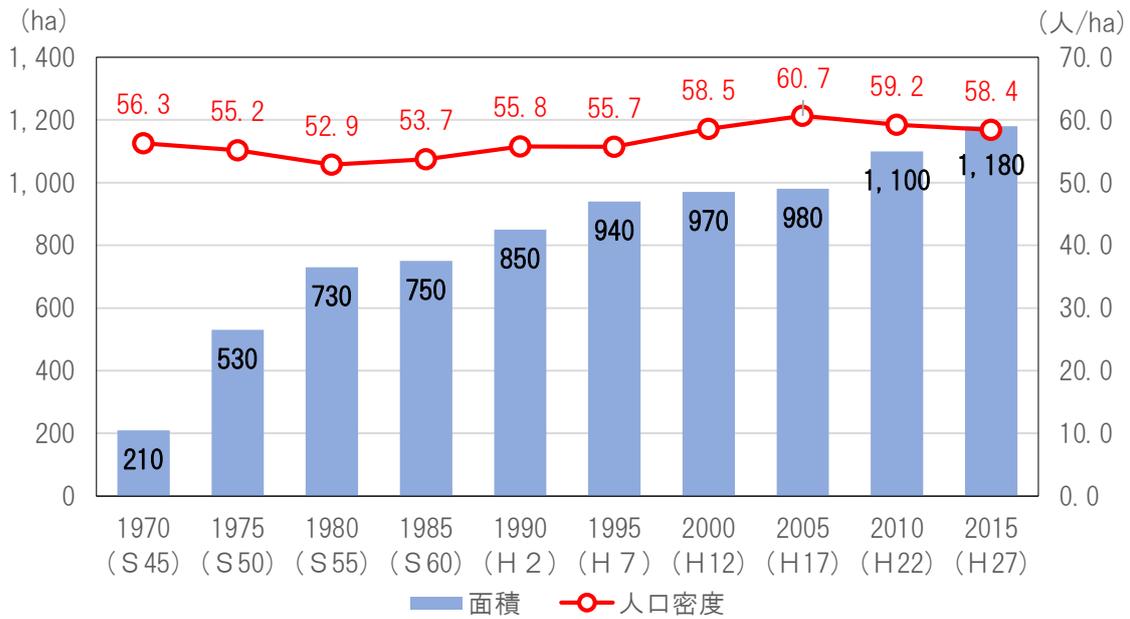
また、D I Dの人口密度は、55 人/ha 前後でほぼ横ばいの状態が続いています。



■人口集中地区の変遷（市街化区域（用途地域は最新の区域を表示）

資料：国土数値情報「人口集中地区データ」

■人口集中地区の面積及び人口密度の推移

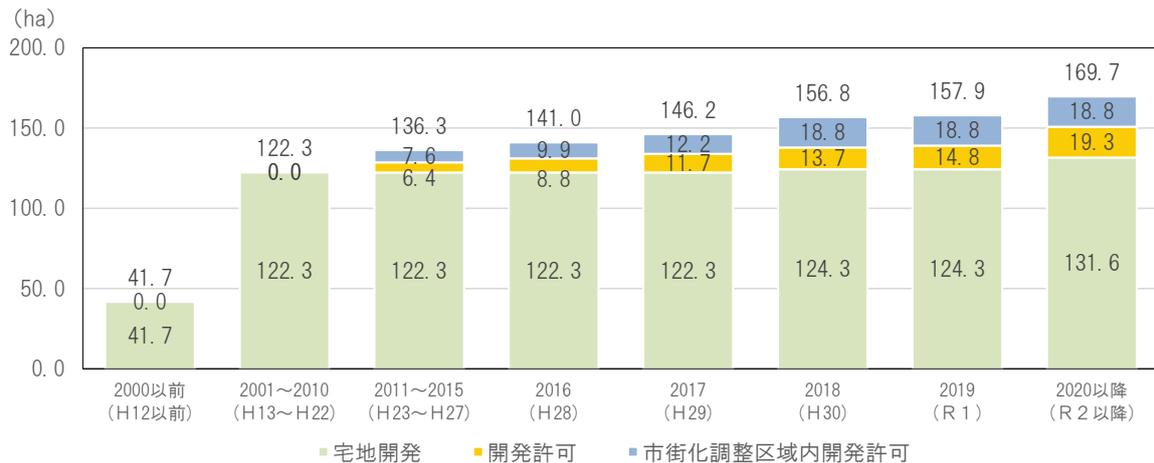


資料：平成 27 (2015) 年国勢調査

⑤開発動向

本市の市街化区域内における面的な整備面積は、用途地域指定面積の約 13%にあたる約 151ha となっています。平成 13 (2001) 年以降は民間の開発行為を中心に開発面積が増加していますが、宅地開発としては現在、木田駅南側のエリアにおいて「木田郷南土地区画整理事業」が施行されています。

■開発動向の推移



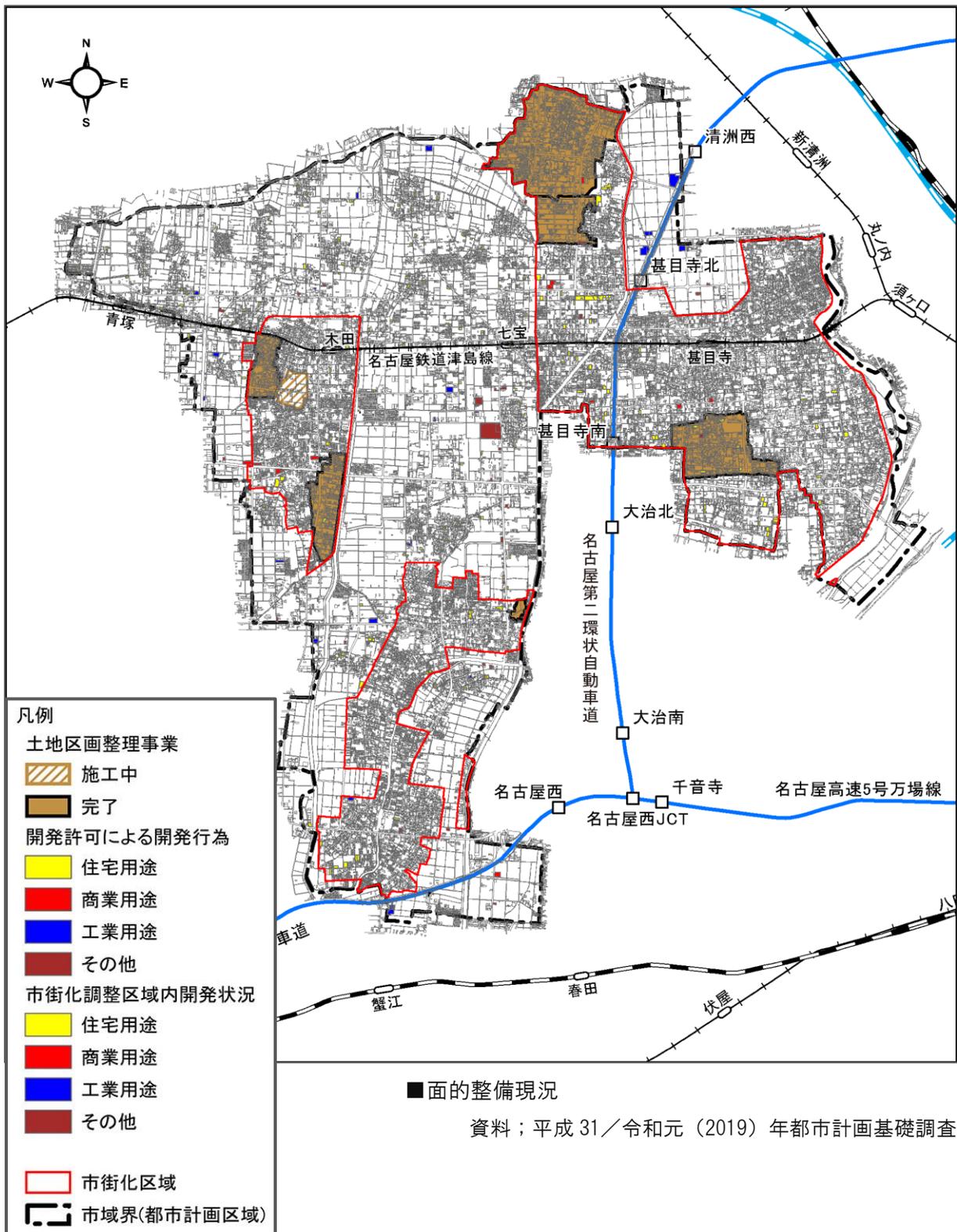
※宅地開発は完了年度の面積

※開発許可は工事完了公告年度の面積

※市街化調整区域内開発状況は許可年度の面積

※完了年度が空欄の開発行為については、2021 年度以降の完了として計上

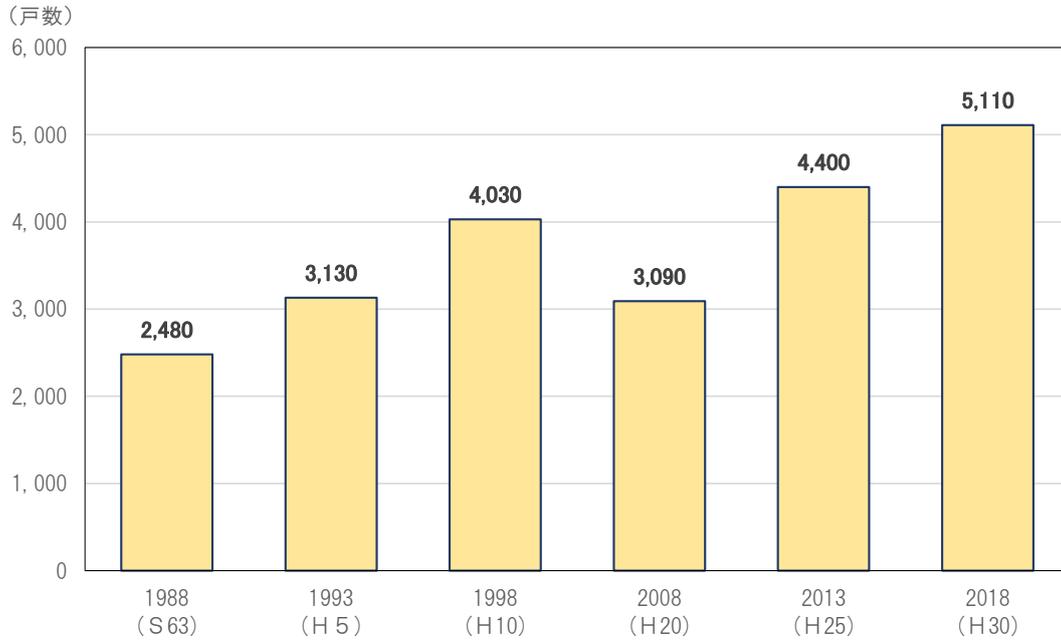
資料：平成 31 / 令和元 (2019) 年都市計画基礎調査



⑥空き家の動向

本市の空き家の戸数は昭和 63（1988）年以降増加傾向にあり、昭和 63（1988）年から平成 30（2018）年までの 30 年間で 2 倍近く増加しています。

■ 空き家戸数の推移



資料：住宅・土地統計調査

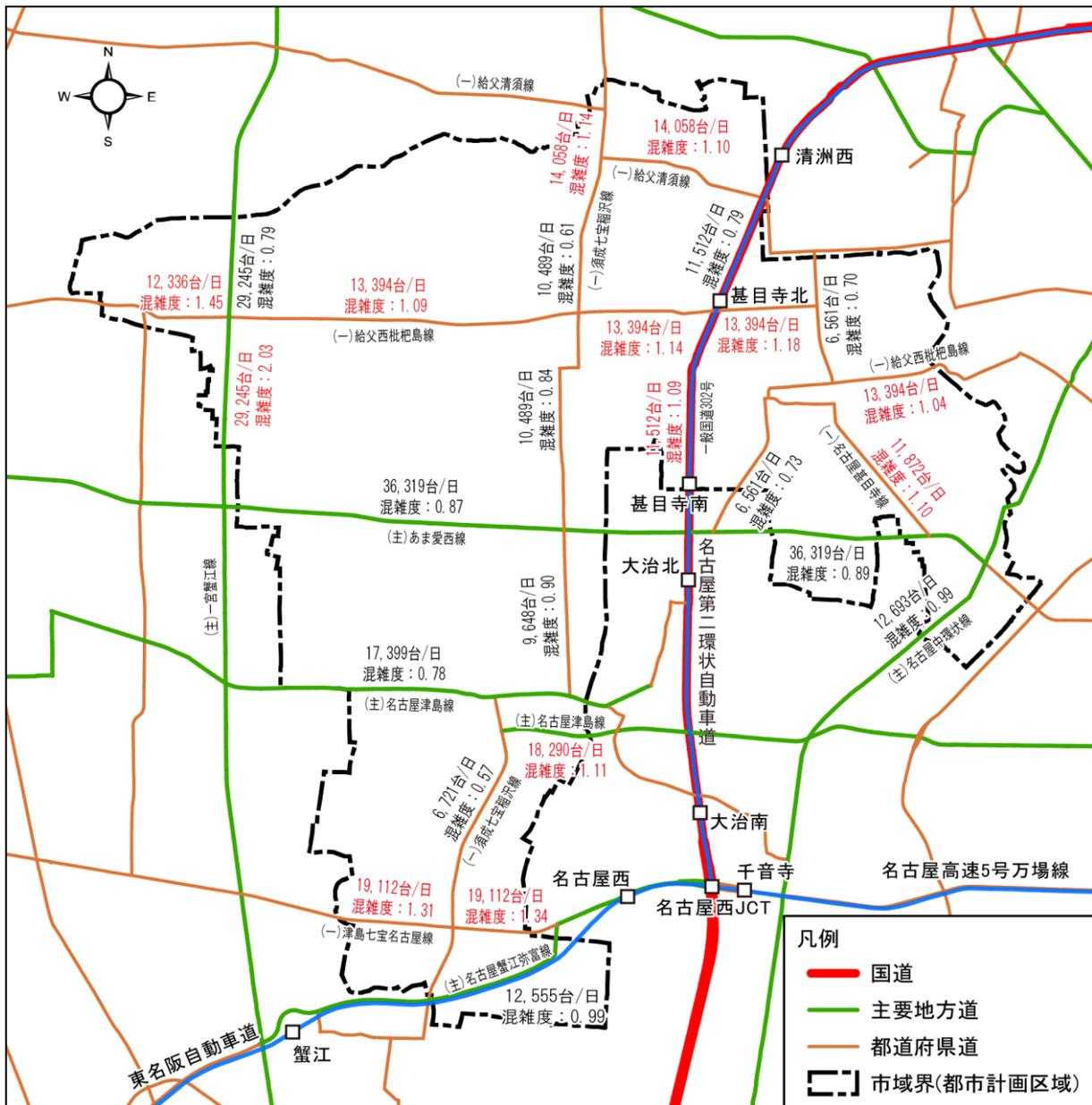
(3) 都市基盤

① 幹線道路網

本市の幹線道路網は東西方向の（一）給父清須線、（一）給父西枇杷島線、（主）あま愛西線、（主）名古屋津島線、（一）津島七宝名古屋線、（主）名古屋蟹江弥富線、南北方向の一般国道302号、（一）須成七宝稻沢線、（主）一宮蟹江線により構成されています。

交通量が1万台/日前後の区間が多い中、（主）あま愛西線及び（主）一宮蟹江線は特に交通量が多くなっています。

また、一般国道302号、（主）一宮蟹江線等、混雑度が1.0を超える区間もみられます。



■ 幹線道路網と交通状況

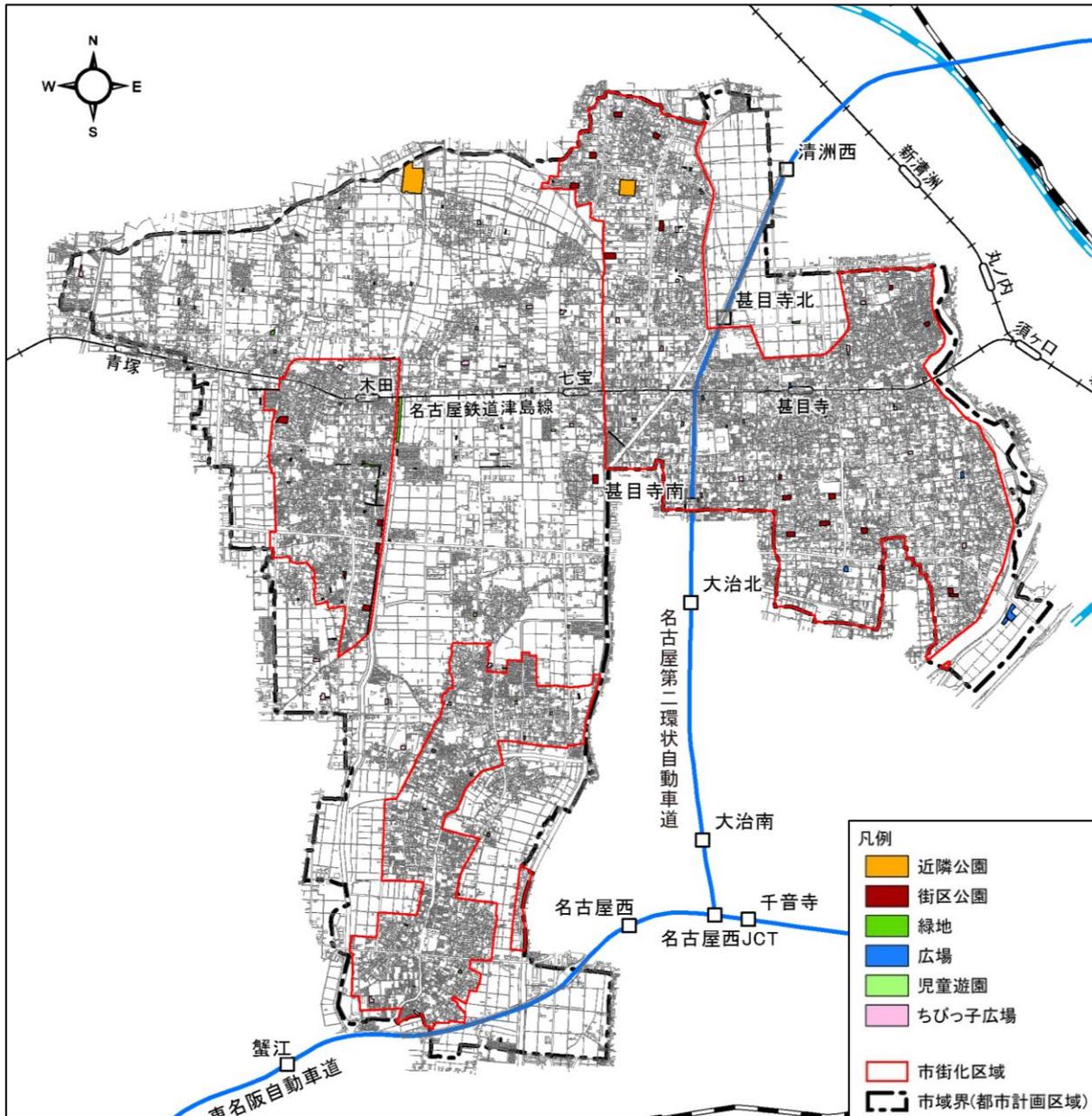
※：赤字は混雑度が1.0を超える区間を示す。

※：（主）は主要地方道、（一）は一般県道を示す。

資料：平成27（2015）年道路交通センサス

③公園緑地

本市には、都市公園が54箇所整備されており、総面積は約13haとなっています。一人当たりの都市公園面積は1.45㎡/人となっており、国の標準値(10.0㎡/人)や愛知県の平均値(7.79㎡/人)を大きく下回っている状況です。

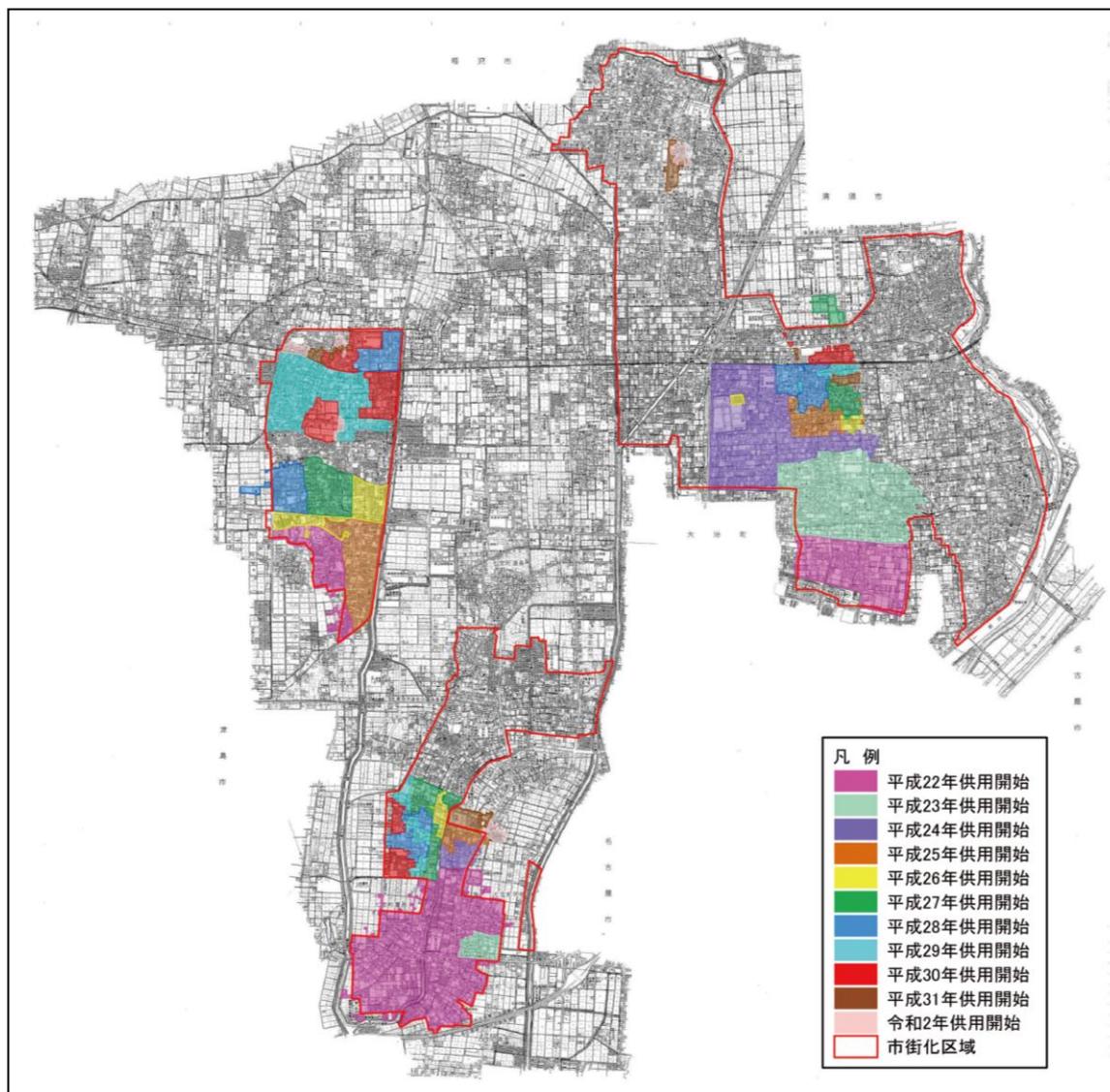


■公園緑地の設置状況

資料：あま市資料

④公共下水道

平成 14 (2002) 年に愛知県が下水道事業に着手して以降、平成 31 / 令和元 (2019) 年末までに 517ha が整備されており、「あま市公共下水道重点アクションプラン」に基づき、市街化区域を中心に順次整備を進めています。

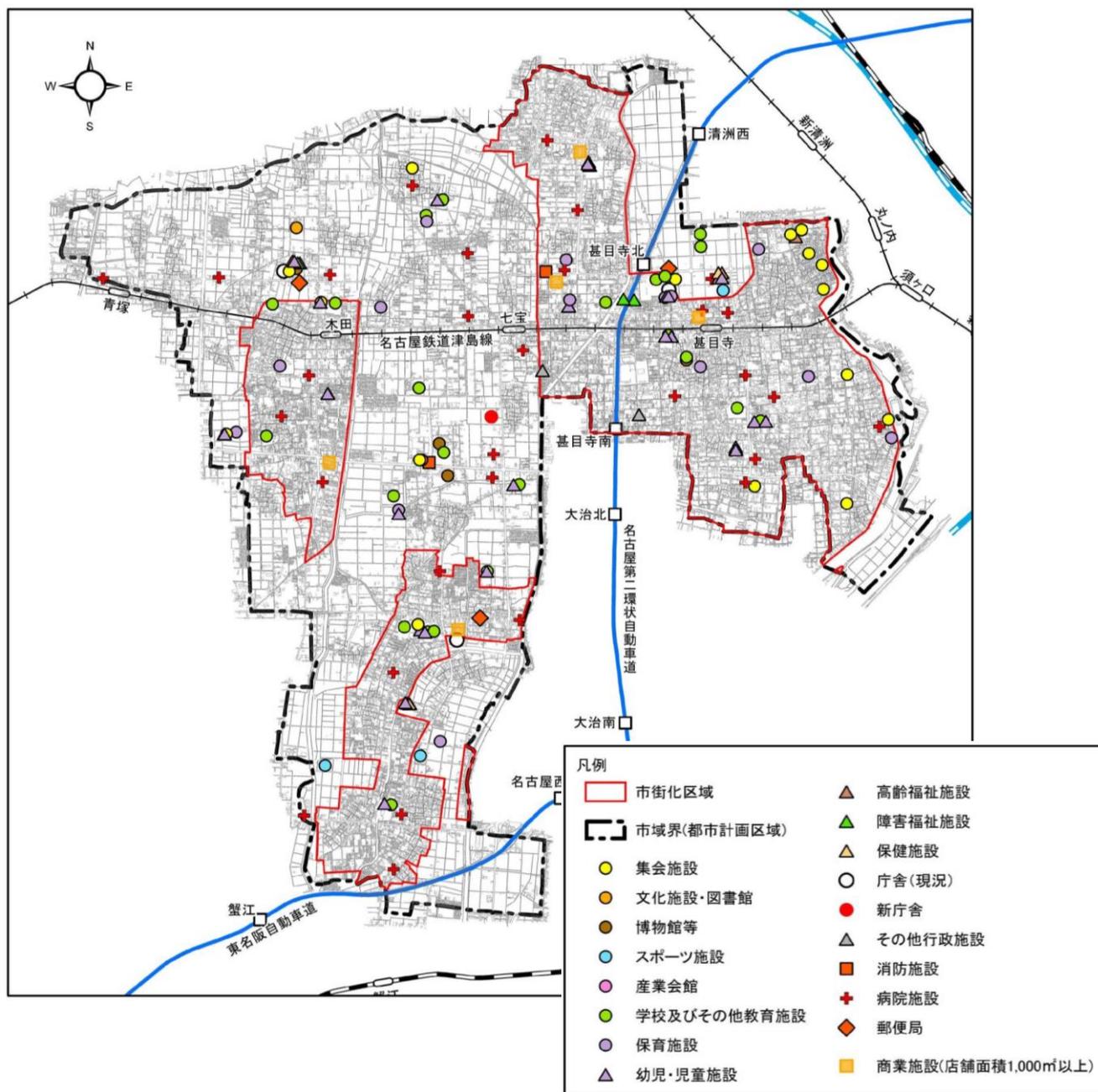


■公共下水道供用区域（令和2（2020）年4月1日現在）

資料：あま市公共下水道供用開始区域図を加筆

⑤公共公益施設・生活サービス施設

本市の公共施設は市街化区域内外に係わらず分布しており、特に庁舎をはじめとした行政施設周辺には公共施設が集積しています。また、今後の都市づくりの拠点となるべき、本市の重心となる七宝駅南側のエリアにおいて新庁舎を整備しています。



■公共施設の立地状況

資料：「あま市公共施設等総合権利計画 平成 29（2017）年 3 月」を基に
国土数値情報「公共施設」、「市町村役場等及び公的集会施設」を加工

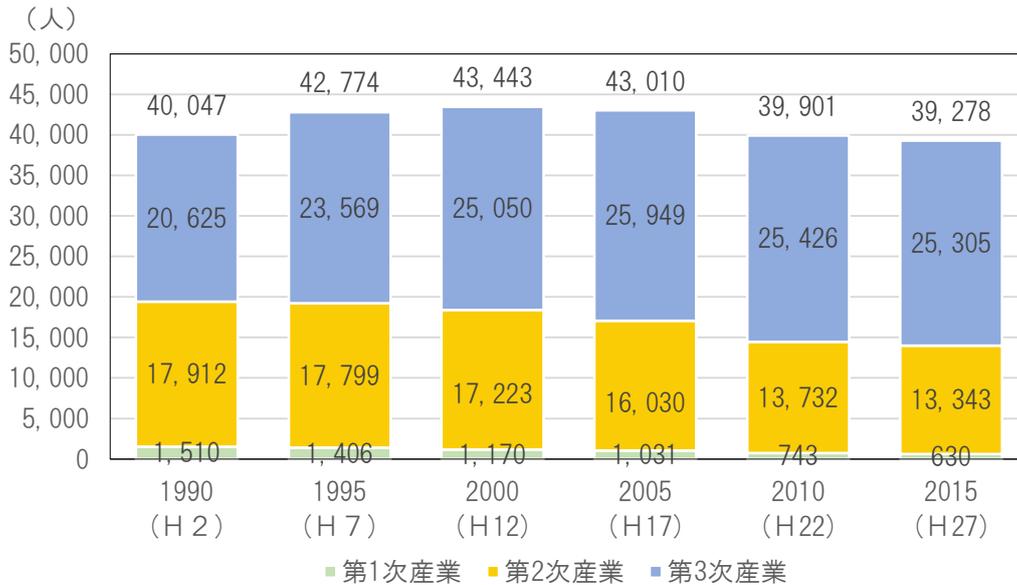
(4) 産業

①産業別就業者人口

本市の就業人口は、平成12(2000)年をピークに減少に転じています。

就業人口の割合は、平成2(1990)年から平成27(2015)年の25年間で、第1次産業(農業など)の就業者数は約58%、第2次産業(製造業、建設業など)は約25%減少しているのに対し、第3次産業(卸売業・小売業、宿泊業、サービス業など)の就業者数は約23%増加しています。

■産業別就業人口



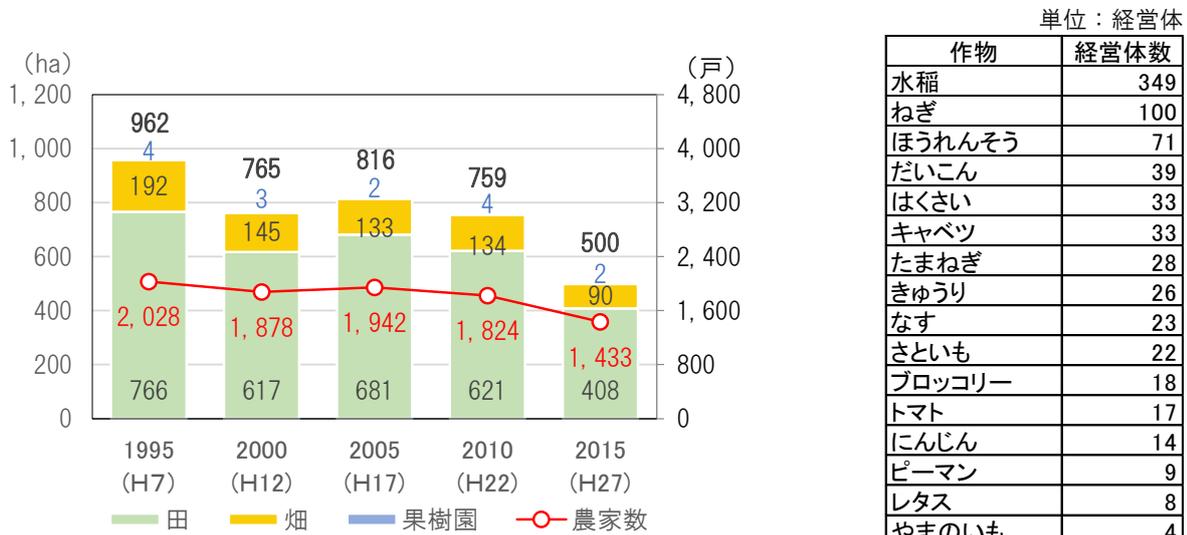
資料：平成27(2015)年国勢調査

②農業

本市の農家数及び耕作地面積は減少が続いており、平成7(1995)年から平成27(2015)年にかけて農家数は約30%、耕作地面積は約48%減少しています。

また、作物別の経営対数については、「水稻」が大半を占めていますが、「ねぎ」、「ほうれんそう」などを栽培する経営体も多くみられました。

■経営耕作地面積及び農家数の推移及び販売を目的とした農産物の作付経営体数



作物	経営体数
水稻	349
ねぎ	100
ほうれんそう	71
だいこん	39
はくさい	33
キャベツ	33
たまねぎ	28
きゅうり	26
なす	23
さといも	22
ブロッコリー	18
トマト	17
にんじん	14
ピーマン	9
レタス	8
やまのいも	4

資料：あま市の統計、平成27(2015)年農林業センサス

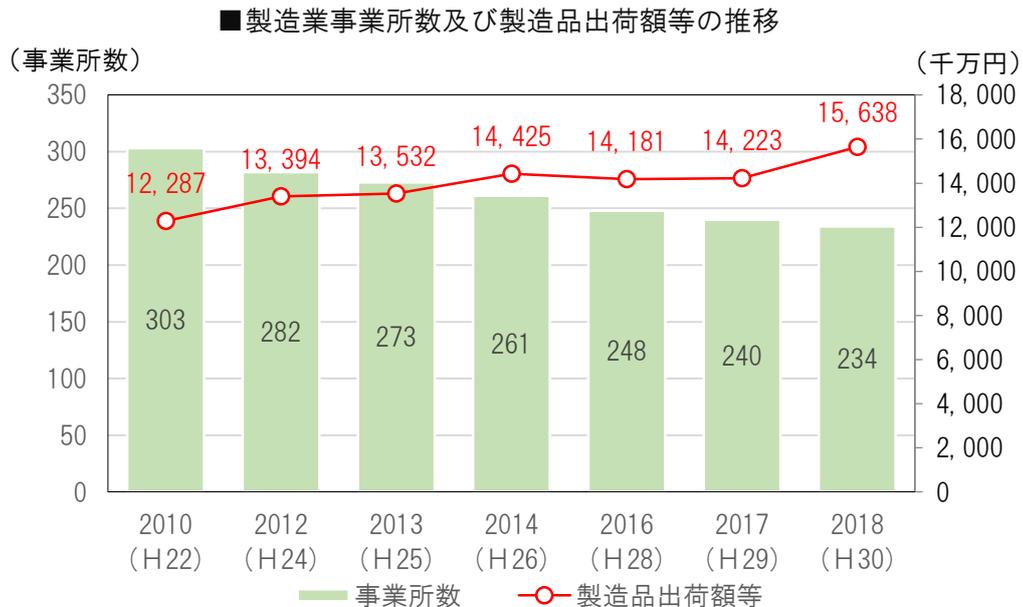
資料：平成27(2015)年農林業センサス

③製造業

【事業所数・製造品出荷額等】

本市の製造業は、事業所数は減少傾向にある一方、製造品出荷額等は増加傾向にあります。

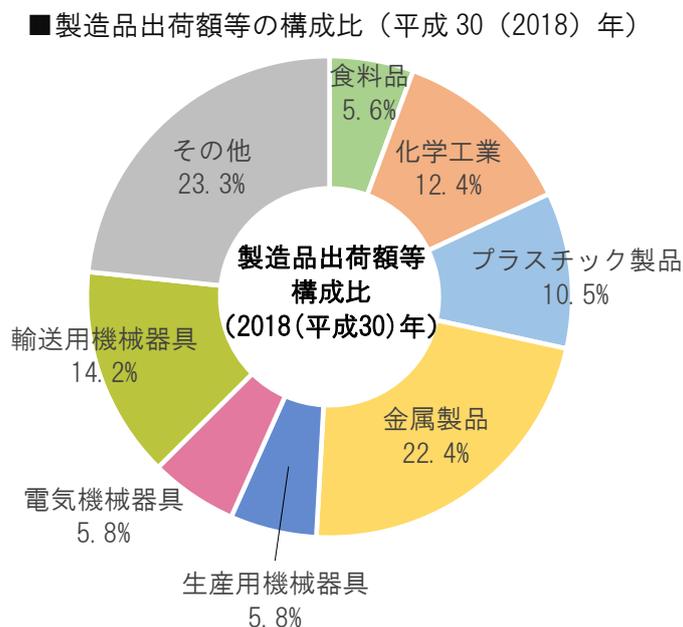
平成 22 (2010) 年から平成 30 (2018) 年にかけて事業所数は約 23%減少、製造品出荷額は約 27%増加しています。



資料：工業統計調査

【製造品出荷額等の内訳】

製造品出荷額等の内訳については、金属製品が全体の約 22%を占めており、次いで輸送用機械器具が約 14%，化学工業が約 12%となっています。

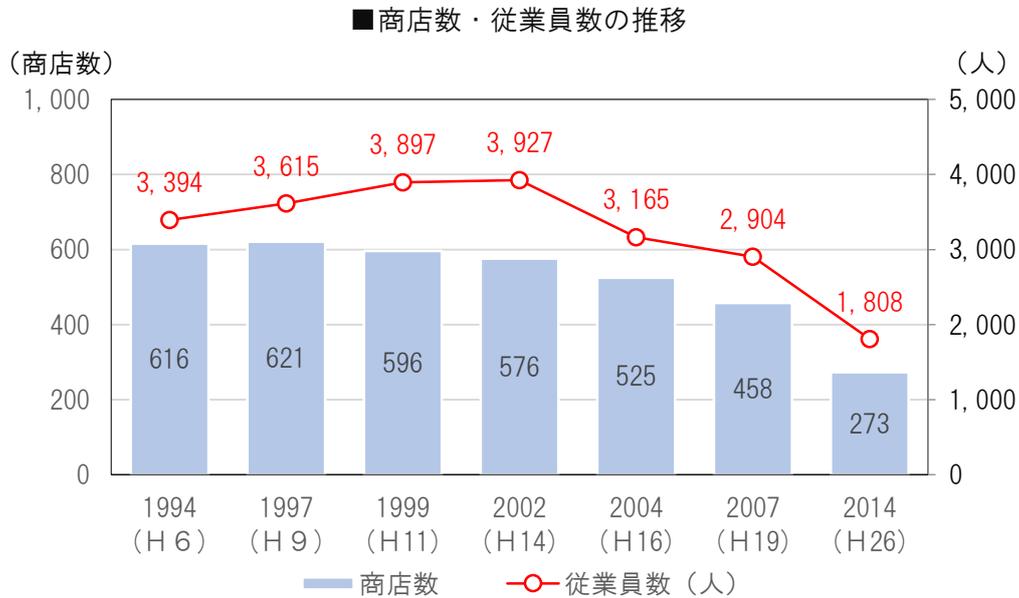


資料：工業統計調査

④商業

【商店数・従業員数】

本市の商業は、商店数及び従業員数ともに減少傾向にあり、特に平成16（2014）年以降は減少が大きくなっています。

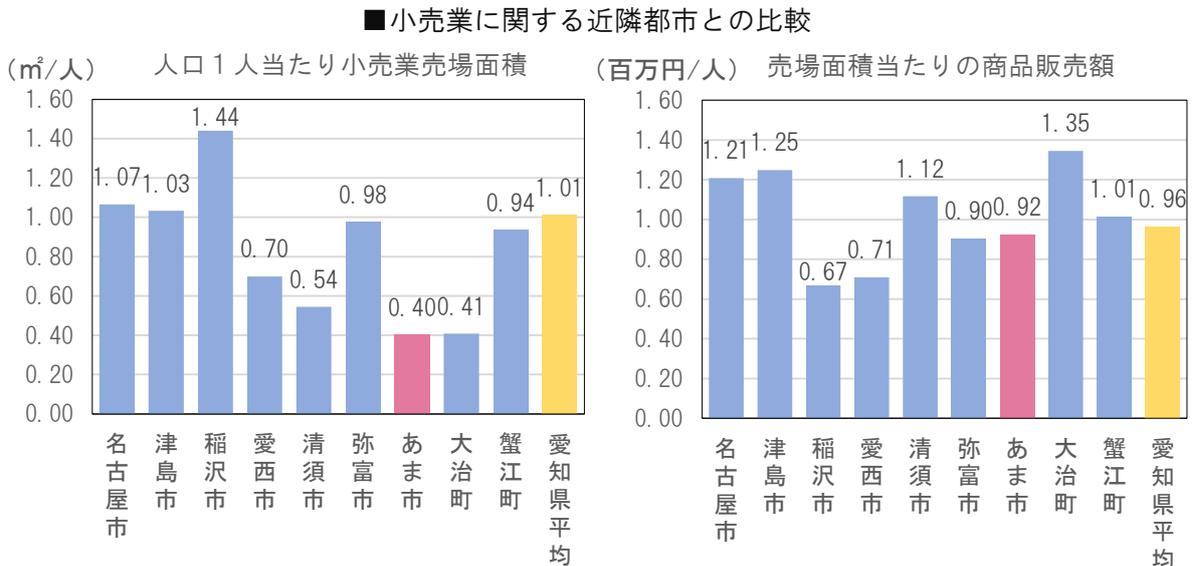


資料：商業統計調査

【小売業に関する近隣都市との比較】

本市の商業（小売業）の人口1人当たりの売場面積は、周辺市町及び県平均を大きく下回っています。

また、売場面積当たりの商品販売額（売場効率）は県平均を下回るとともに、名古屋市や津島市、清須市、大治町等の周辺市町を大きく下回っています。



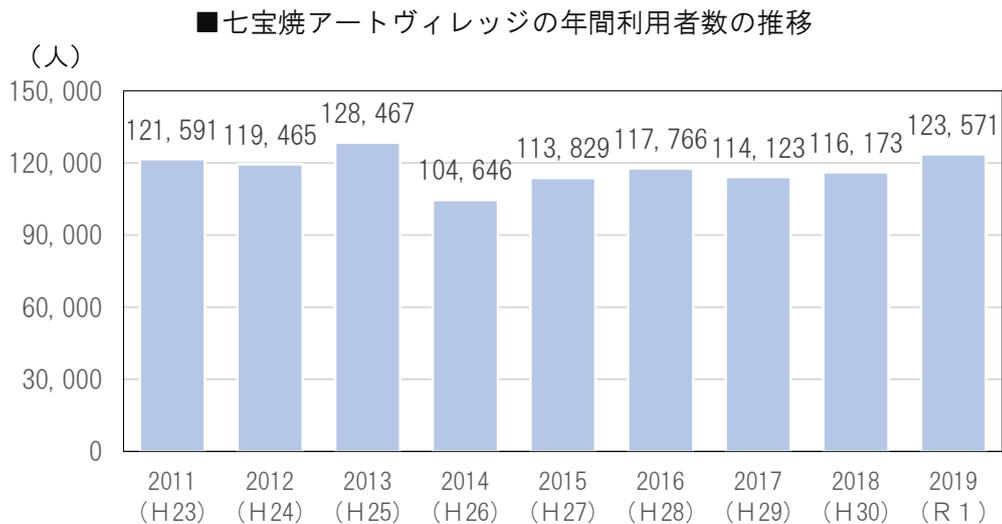
資料：平成26（2014）年商業統計調査、平成27（2015）年国勢調査

(5) 観光

①観光施設

本市の主な観光施設として、七宝焼について総合的に学ぶことができる「七宝焼アートヴィレッジ」や本市の歴史・文化に関する資料を展示する「美和歴史民俗資料館」及び「甚目寺歴史民俗資料館」、市民の憩いの場である「二ツ寺親水公園」などがあります。

特に、「七宝焼アートヴィレッジ」は、国の伝統的工芸品にも指定されている「尾張七宝」の歴史や制作工程を見学することができる施設として、市内外問わず多くの来訪者でにぎわいをみせています。



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計



七宝焼アートヴィレッジ



甚目寺歴史民俗資料館



美和歴史民俗資料館



二ツ寺親水公園

■主な観光施設

資料：あま市観光協会ホームページ

②歴史・文化

本市には、尾張四観音の一つとして知られる「甚目寺観音」、江戸時代の戦国武将の菩提寺として知られる「蓮華寺」や「菊泉院」、国内唯一の漬物の神が祀られている「萱津神社」をはじめ、歴史的・文化的に貴重な資源があります。



甚目寺観音



蓮華寺



芳春院の里（前田まつの生誕地）



萱津神社

資料：あま市観光協会ホームページ、あま市公式ウェブサイト

③伝統工芸

本市の主な伝統産業としては、地場産業である「刷毛・刷子」や国の伝統的工芸品に指定されている「尾張七宝」などがあります。

「刷毛」については、近年後継者不足等の課題はあるものの、昭和48（1973）年以来、全国一の国内生産量を誇っており、現在では32軒の事業者で国内生産量の約6割を担っています。

「七宝焼」については、現在では窯元が10件にまで減少しており、後継者不足による伝統技術の継承が危惧されています。



地場産業「刷毛」



国の伝統的工芸品「七宝焼」

資料：あま市観光協会ホームページ、あま市公式ウェブサイト

④イベント・まつり

本市が有する観光施設や歴史・文化資源などを広くPRし、地域のにぎわい創出を図るため、あま市観光協会をはじめとした各種団体と連携したイベントやまつりを実施しています。



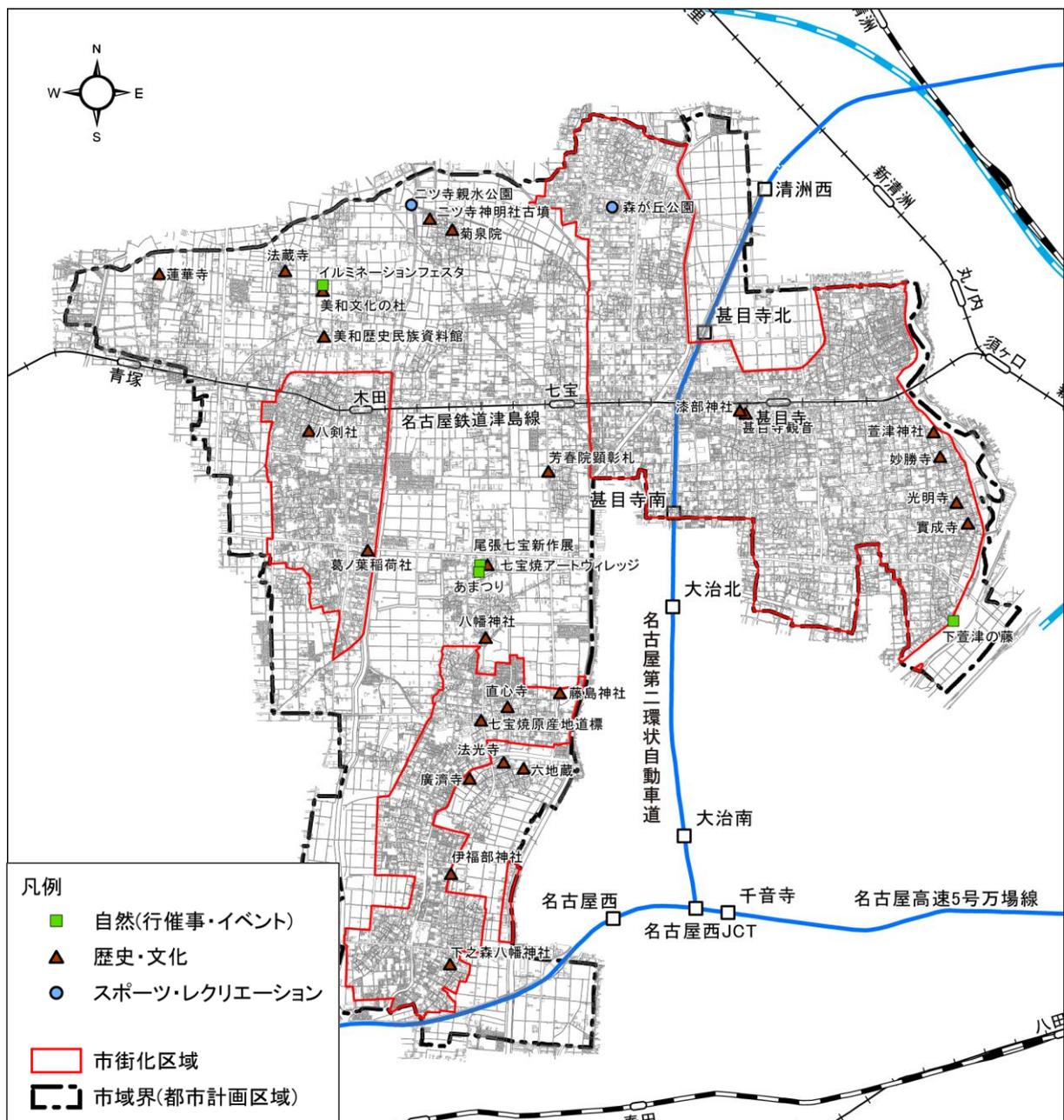
■「第7回あまつり」の様子

資料：あま市資料



■「イルミネーションフェスタ in あま 2019」の様子

資料：愛知県の公式観光ガイド「Aichi Now」

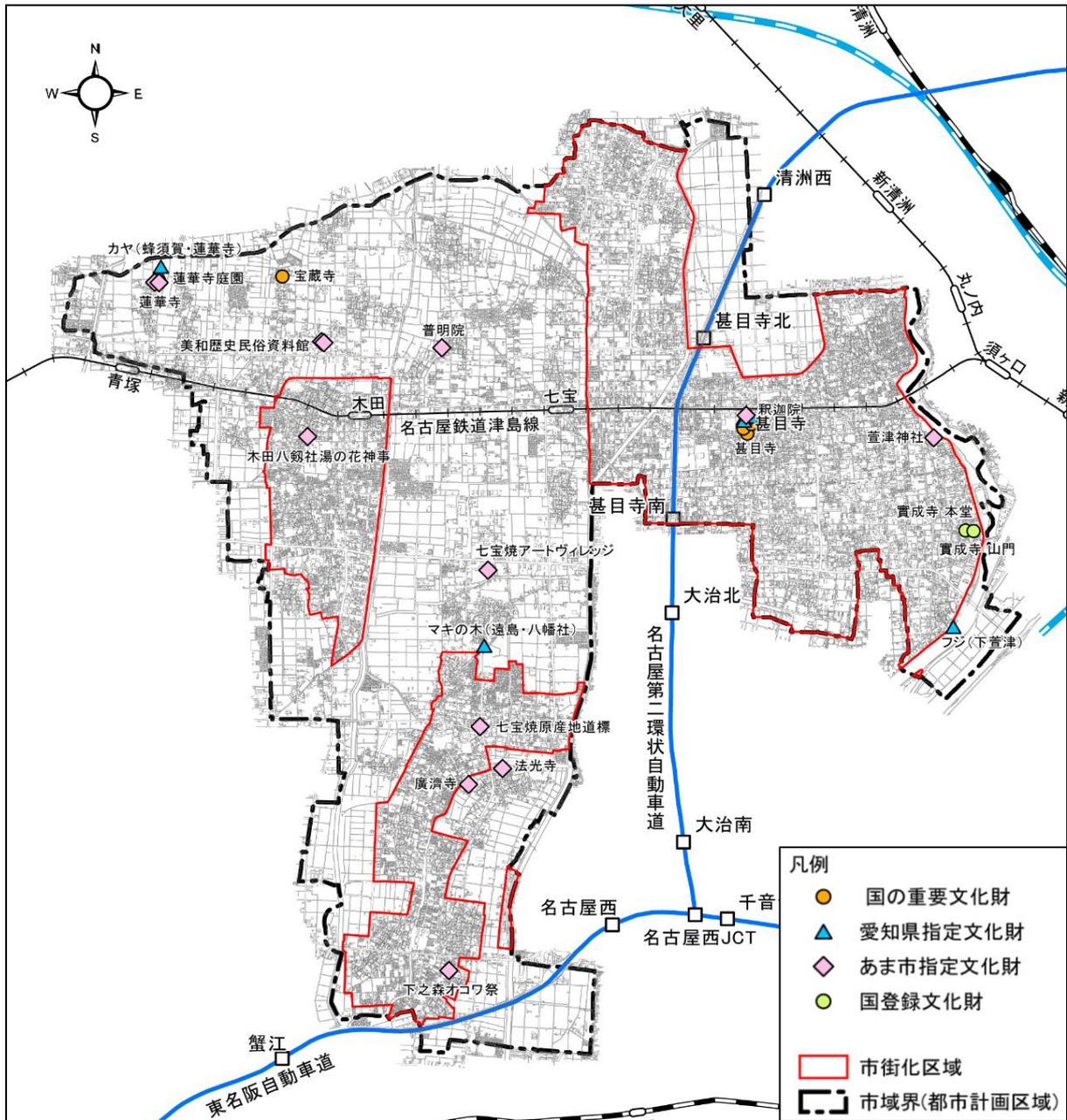


■観光資源の分布

■主な観光資源（自然、スポーツ・レクリエーション、歴史・文化）

名称	区分	名称	区分	名称	区分
下萱津の藤	自然（行催事・イベント）	妙勝寺	歴史・文化	八幡神社	歴史・文化
イルミネーションフェスタ		光明寺		直心寺	
尾張七宝新作品展		賽成寺		藤島神社	
あまつり		漆部神社		七宝焼原産地道標	
ニツ寺親水公園	スポーツ・レクリエーション	八剣社	歴史・文化	法光寺	歴史・文化
森ヶ丘公園		芳春院顕彰札		六地藏	
蓮華寺	歴史・文化	葛ノ葉稻荷社		廣濟寺	
法蔵寺		ニツ寺神明社古墳		伊福部神社	
菊泉院		美和文化の杜		下之森八幡神社	
甚目寺観音		美和歴史民俗資料館			
萱津神社		七宝焼アートヴィレッジ			

資料：「あま市観光ガイド まちマップ」あま市観光協会



■ 指定文化財の分布

資料：「国・県・市指定文化財一覧（平成28（2016）年4月現在）」あま市

■指定文化財一覧

あま市の指定文化財一覧・国の重要文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
鳳凰山甚目寺	建造物	甚目寺 南大門	1 棟	鎌倉時代	M33.4.7	甚目寺東大門前24
	建造物	甚目寺 三重塔	1 棟	寛永4年(1627)	S28.11.4	甚目寺東大門前24
	建造物	甚目寺 東門	1 棟	寛永11年(1634)	S28.11.4	甚目寺東大門前24
	絵画	絹本着色不動尊像図	1 幅		M34.3.27	甚目寺東大門前24
	絵画	絹本着色仏涅槃図	1 幅		M34.3.27	甚目寺東大門前24
	彫刻	木造愛染明王坐像	1 軀	弘安4年(1281)	H24.9.6	甚目寺東大門前24
法蔵寺	彫刻	鉄蔵地藏菩薩立像	1 軀	寛喜2年(1230)	S46.6.22	中橋郷中16

愛知県指定文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
池鈴山蓮華寺	絵画	金剛界・胎蔵界曼荼羅	各1幅	鎌倉時代	S33.3.29	蜂須賀大寺1352
	彫刻	木造仏頭	1 軀	平安時代	S33.3.29	
	書跡	法華経	8 巻	室町時代	S33.3.29	
	名勝	蓮華寺庭園	1,479 m ²	室町時代 ^か	S40.5.21	
	天然記念物	カヤ(蜂須賀・蓮華寺)	1 本	樹齢約 500 年	S33.6.21	
鳳凰山甚目寺	彫刻	木造仁王像	2 軀	慶長2年(1597)	S33.6.21	甚目寺東大門前24
	工芸	瑞花双鸞八稜鏡	1 枚	伝白鳳時代	S40.5.21	
	工芸	梵鐘	1 口	建武4年(1337)	S40.5.21	
釈迦院	絵画	田中訥言画蹟	3 幅	江戸時代(1800年頃)	S33.6.21	甚目寺東大門前24
あま市	天然記念物	フジ(下萱津)	1 本	樹齢約 350 年	S29.3.12	下萱津未見取1130-42
八幡神社	天然記念物	マキの木(遠島・八幡社)	1 本	樹齢約 350 年	S30.6.3	七宝町遠島八幡島424

あま市指定文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
普明院	彫刻	金銅阿弥陀如来立像	1 軀	明応9年(1500)	H3.12.11	花長川内70
池鈴山蓮華寺	彫刻	二十五菩薩面	25 面	室町～江戸初期作	H28.2.25	蜂須賀大寺1352
月桂山法光寺	工芸	梵鐘	1 口	元和4年(1618)	H8.2.1	七宝町桂郷内1608
天桂山廣濟寺	工芸	雲版	1 面	宝暦11年(1761)	H12.11.1	七宝町桂郷内1679
七宝焼アートヴィレッジ	工芸	間取り花鳥文大花瓶	1 点	明治30年頃作	H27.1.27	七宝町遠島十三割2000
美和歴史民俗資料館	書跡	家康筆徳政免除証文	1 通	永禄7年(1564)	S60.11.8	花正七反地1
	書跡	俳諧相伝名目	1 巻	享保11年(1726)	H1.11.10	
	歴史資料	富塚村水帳	3 冊	慶長13年(1608)	S62.2.2	
鳳凰山甚目寺	史跡	甚目寺境内地	9,193 m ²	甚目寺遺跡	S59.3.1	甚目寺東大門24
あま市	史跡	七宝焼原産地道標	1 基	明治28年(1895)	H12.11.1	七宝町桂北海道
萱津神社	無形民俗	香の物祭	1	8月21日実施	S60.4.22	上萱津車屋19
下之森地区	無形民俗	下之森オコワ祭	1	2月11日実施	H24.10.22	七宝町下之森
木田地区	無形民俗	木田八剱社湯の花神事	1	10月第2日曜実施	H24.10.22	木田宮東16
池鈴山蓮華寺	無形民俗	二十五菩薩お練り供養	1	4月第3日曜実施	H28.2.25	蜂須賀大寺1352

国登録文化財

所有・所蔵先	種別	名称	員数	時代等	指定年月日	所在
長久山實成寺	建造物	實成寺 本堂	1 棟	江戸前期の改修	H17.2.9	中萱津南宿254
	建造物	實成寺 山門	1 棟	江戸中期の改修	H17.2.9	

資料：「国・県・市指定文化財一覧（平成28（2016）年4月現在）」あま市

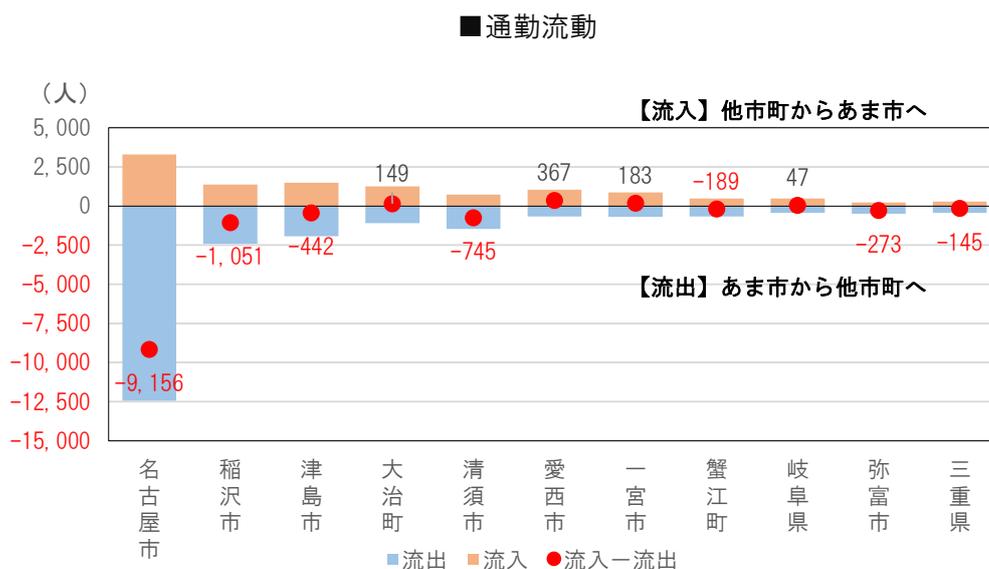
(6) 通勤・通学流動

①通勤流動

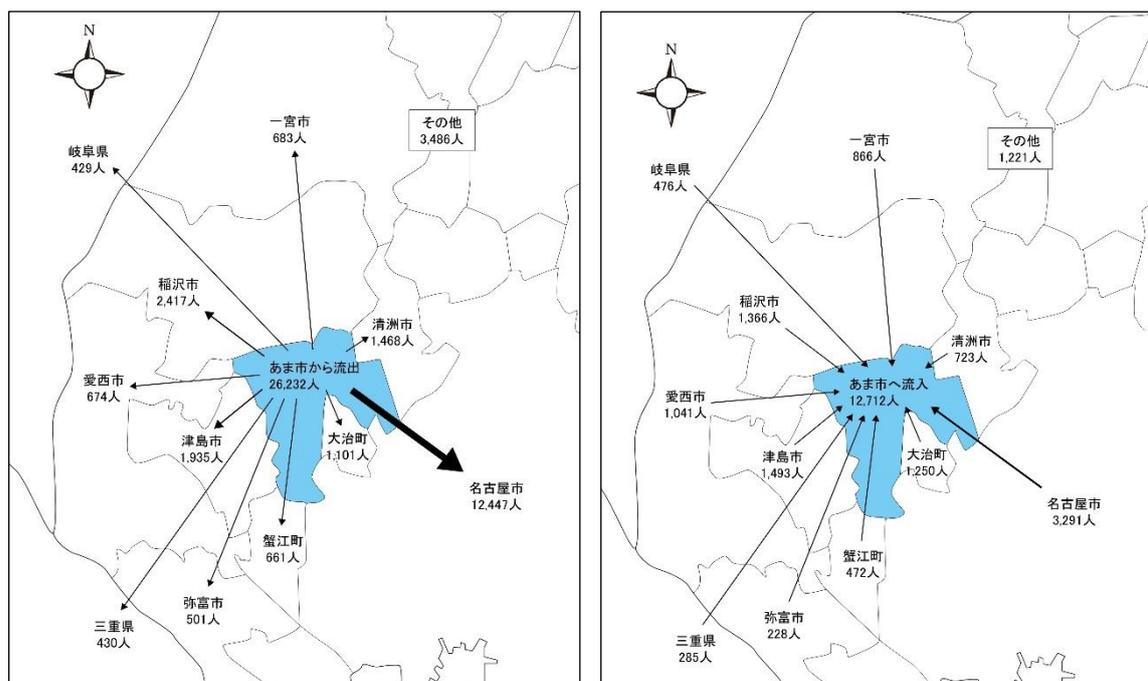
本市に居住する就業者の内、市内で就業する人は約 35%であり、約 65%が市外で就業しています。一方、他市町に居住し本市で就業している人は約 44%となっています。

通勤流動の多い市町は名古屋市、稲沢市、津島市、大治町、清須市となっており、特に名古屋市へは本市に居住する就業者の約 30%が通勤しています。

また、周辺市町への流出人口は 26,232 人、周辺市町からの流入人口は 12,712 人と流出過多となっており、市町別では特に名古屋市への流出超過がみられます。



資料：平成 27 (2015) 年国勢調査



※本市に居住し、本市内に通勤している人数：14,526 人

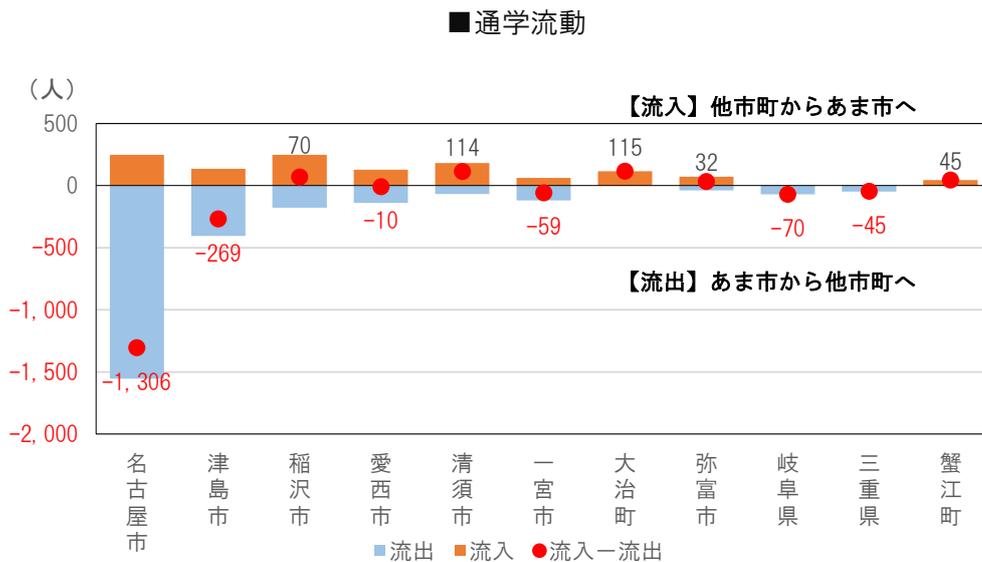
資料：平成 27 (2015) 年国勢調査

②通学流動

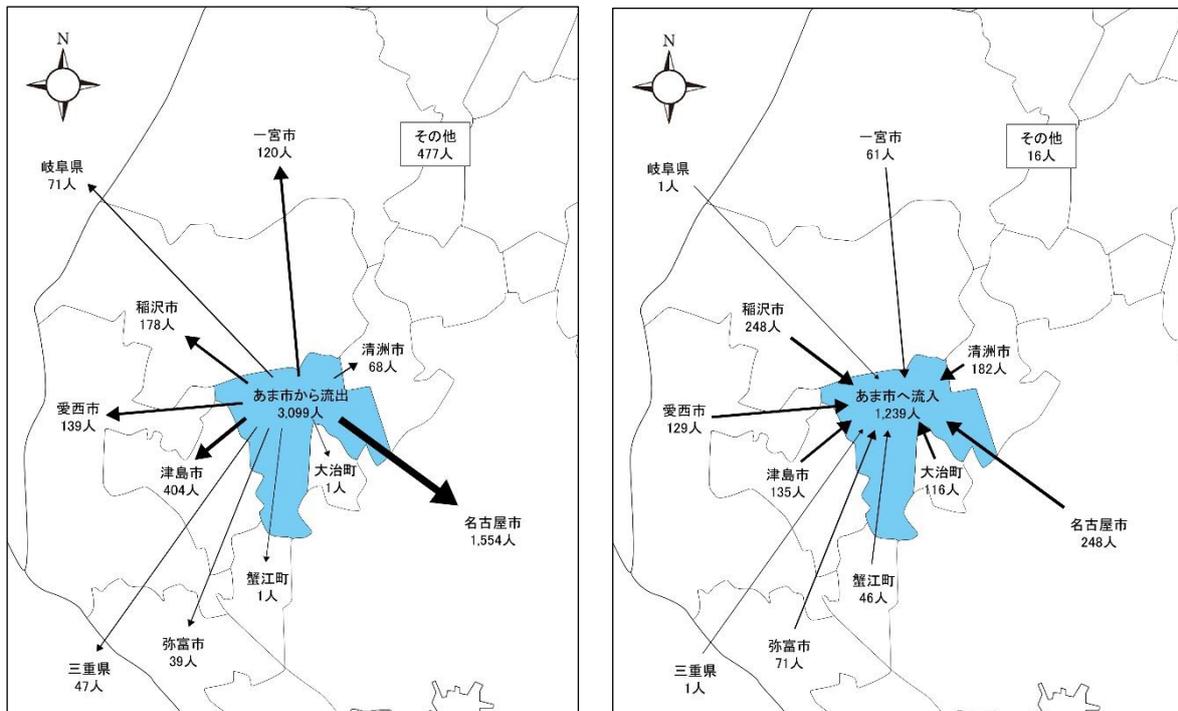
本市に居住する通学者の内、市内に通学する人は約 25%であり、75%が市外に通学していません。一方、他市町に居住し本市に通学している人は約 52%となっています。

通学流動の多い市町は名古屋市、津島市、稲沢市、愛西市、清須市となっており、特に名古屋市へは本市に居住する通学者の約 37%が通学しています。

また、周辺市町への流出人口は 3,009 人、周辺市町からの流入人口は 1,230 人と流出過多となっており、市町別では特に名古屋市への流出超過が多くみられます。



資料：平成 27 (2015) 年国勢調査



資料：平成 27 (2015) 年国勢調査

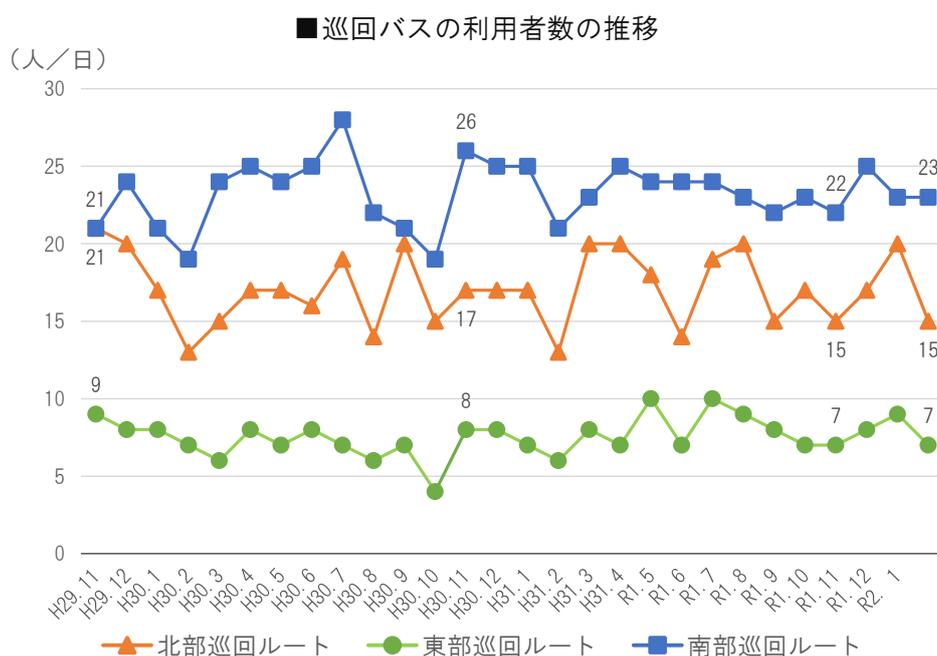
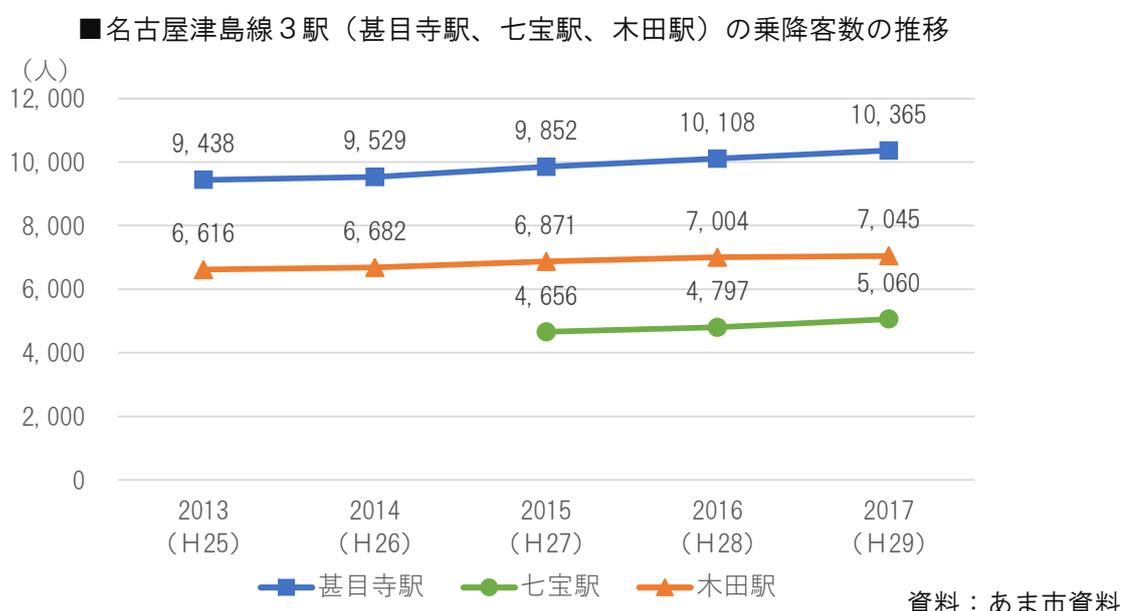
(7) 公共交通

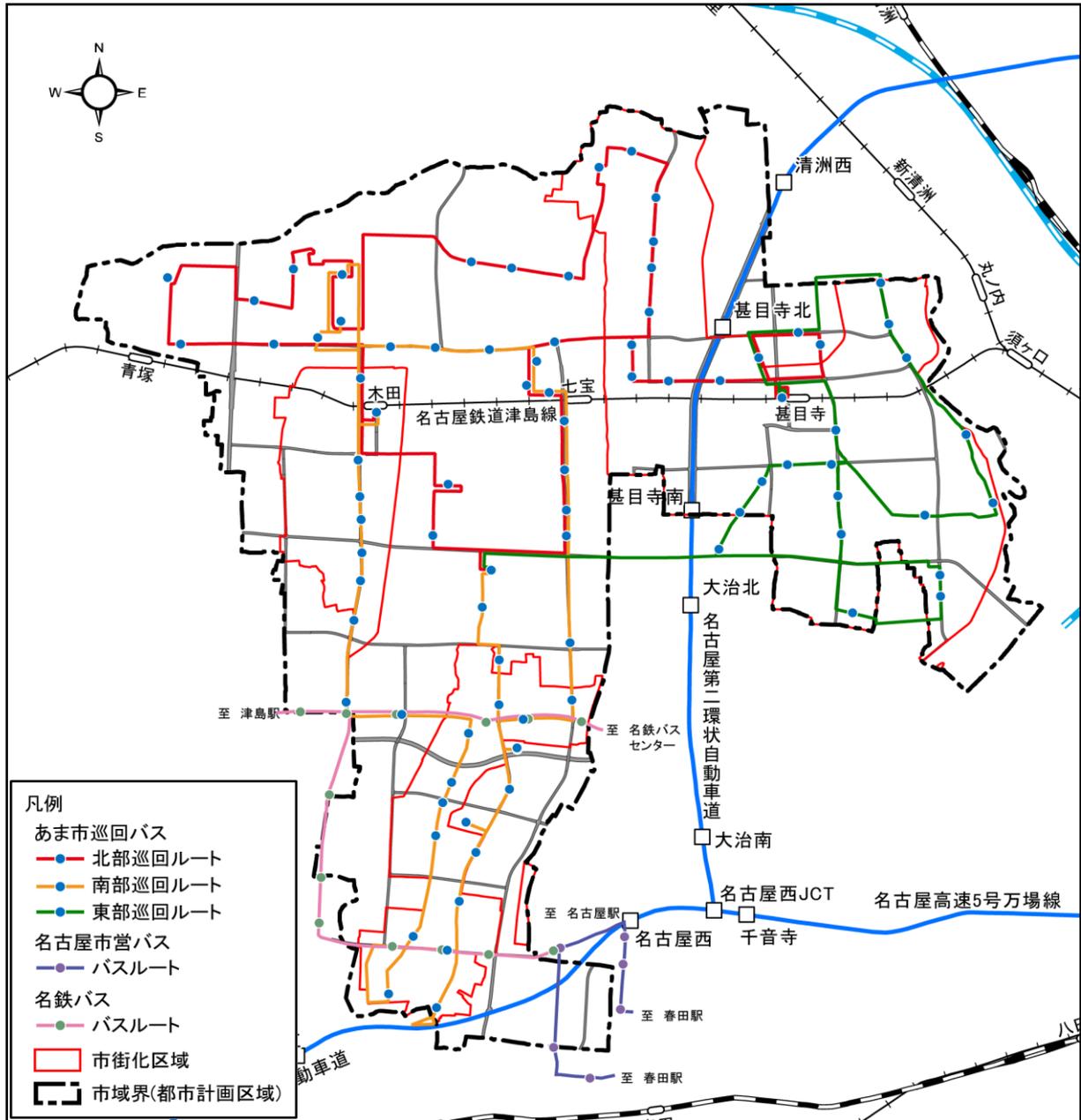
①交通手段

本市の公共交通機関は、市域を東西に横断する名古屋鉄道津島線によって骨格が形成されており、これを補完する形で巡回バスが市内各地を連絡しています。また、市域南部では名鉄バス及び名古屋市営バスが運行しており、名古屋市へ交通手段として活用されています。

名古屋鉄道津島線3駅（甚目寺駅、七宝駅、木田駅）の乗降客数については、ここ数年増加傾向にあります。

巡回バスについては、平成27(2015)年11月より試行運転を開始し、現在3路線（北部巡回ルート、東部巡回ルート、南部巡回ルート）で運行しています。1日当たりの平均利用者数は、北部巡回ルートで約15～20人/日、南部巡回ルートで約20～25人/日、東部巡回ルートで約5～10人となっています。





■公共交通運行状況

資料：国土数値情報「バスルート」、「バス停留所」を基にあま市巡回バスルートを追加

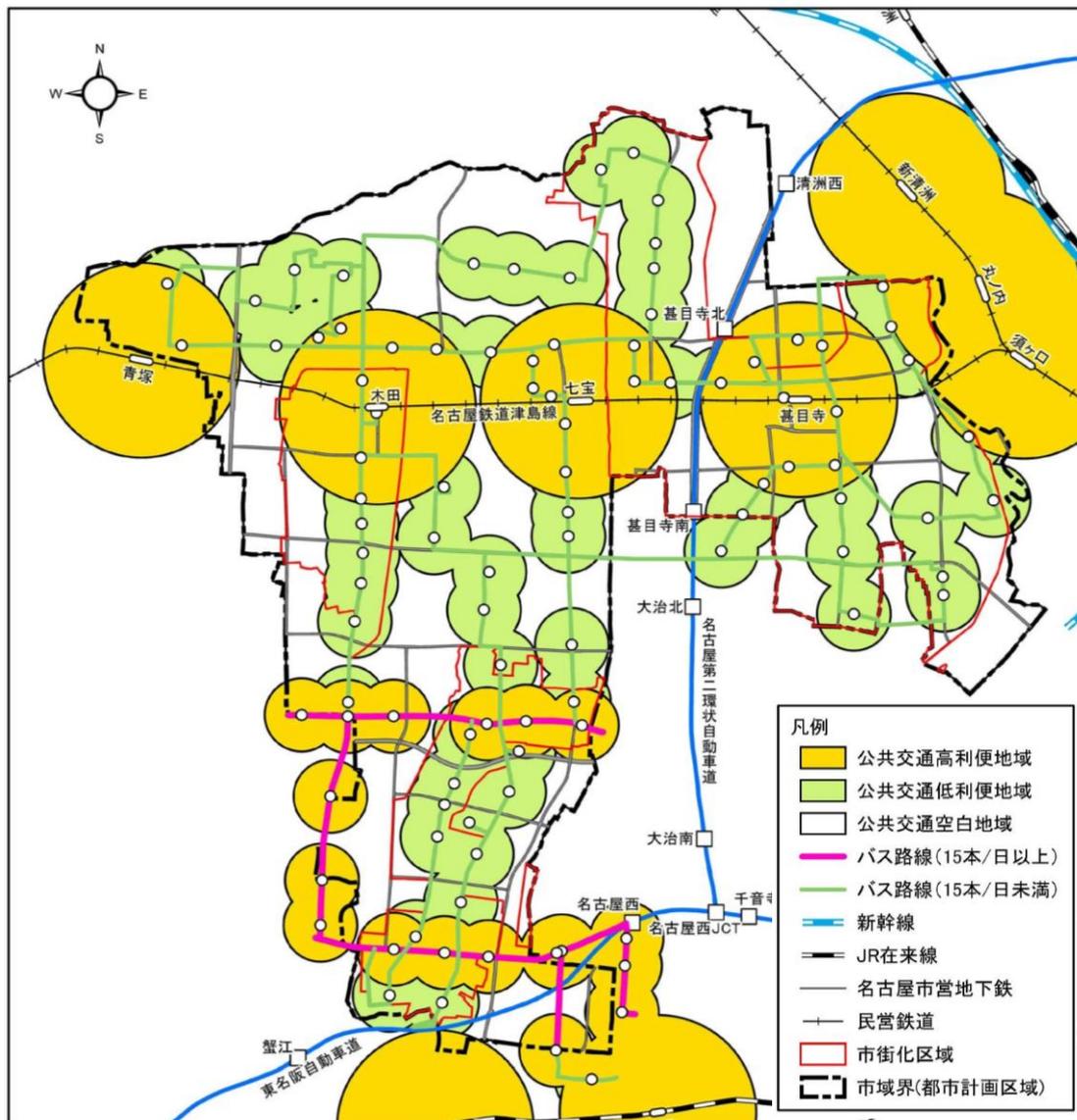
②公共交通人口カバー率

市域内の公共交通人口カバー率は、「公共交通高利便地域」が約48%、「公共交通低利便地域」が約41%、「公共交通空白地域」が約11%となっています。

なお、公共交通の利便性は、「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」に基づき、鉄道駅から800m圏域、バス停から300m圏域の内外により、下表のように分類しています。

■公共交通人口カバー率

		バス		
		バス停から300m圏内		バス停から300m圏外
		運行本数15回/日(片道)以上	運行本数15回/日(片道)未満	
鉄道	駅から800m圏内	公共交通高利便地域 (H27: 41,931人、都市計画区域内人口の約48%)		
	駅から800m圏外	公共交通低利便地域 (H27: 35,301人、都市計画区域内人口の約41%)	公共交通空白地域 (H27: 9,666人、都市計画区域内人口の約11%)	



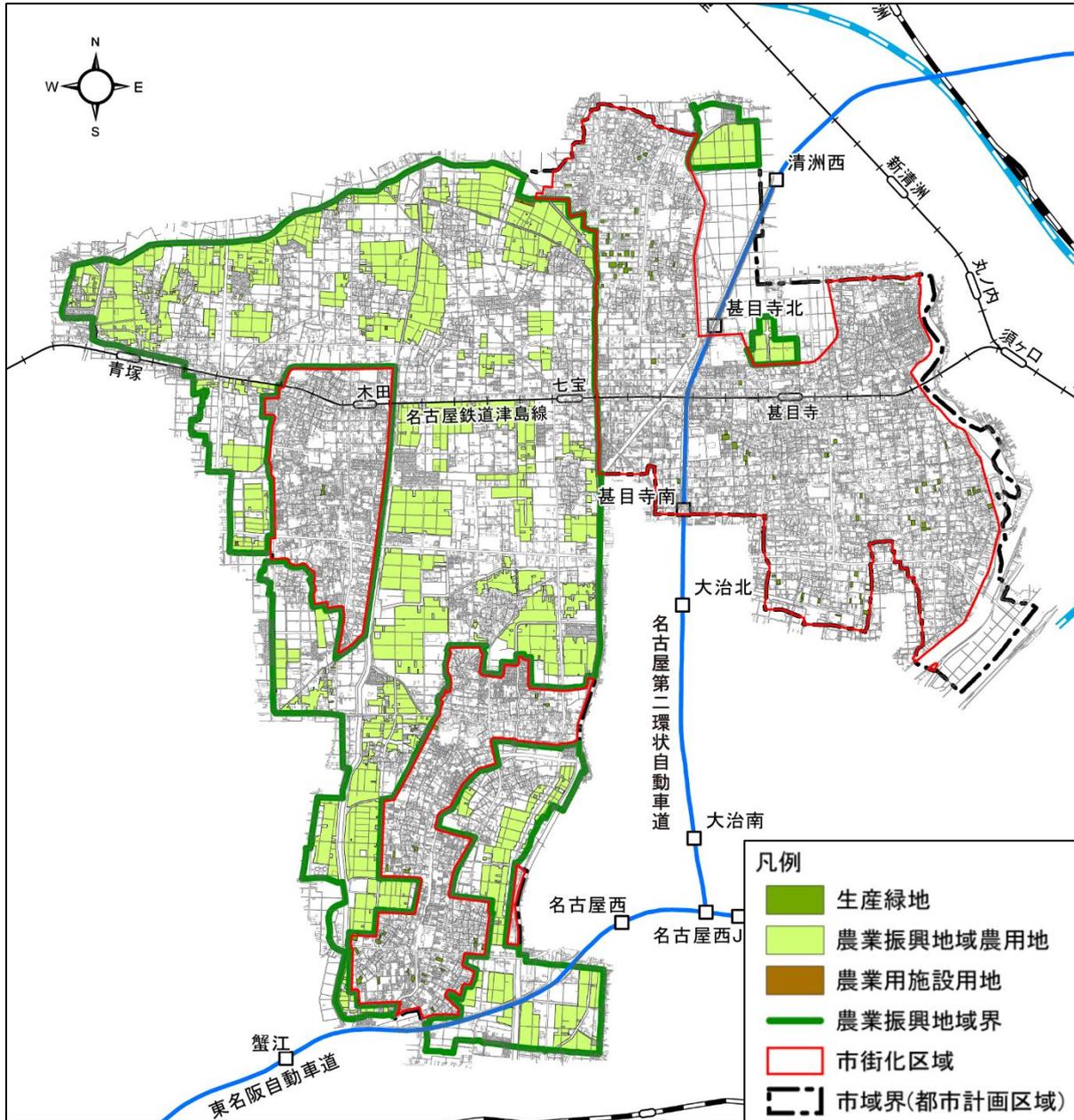
■公共交通カバー状況

資料：国土数値情報を基に作成

(8) 都市環境

① 農地

本市では市街化調整区域の大部分が農業振興地域に指定されており、その内まとまった農地が農業振興地域農用地区域に指定されています。



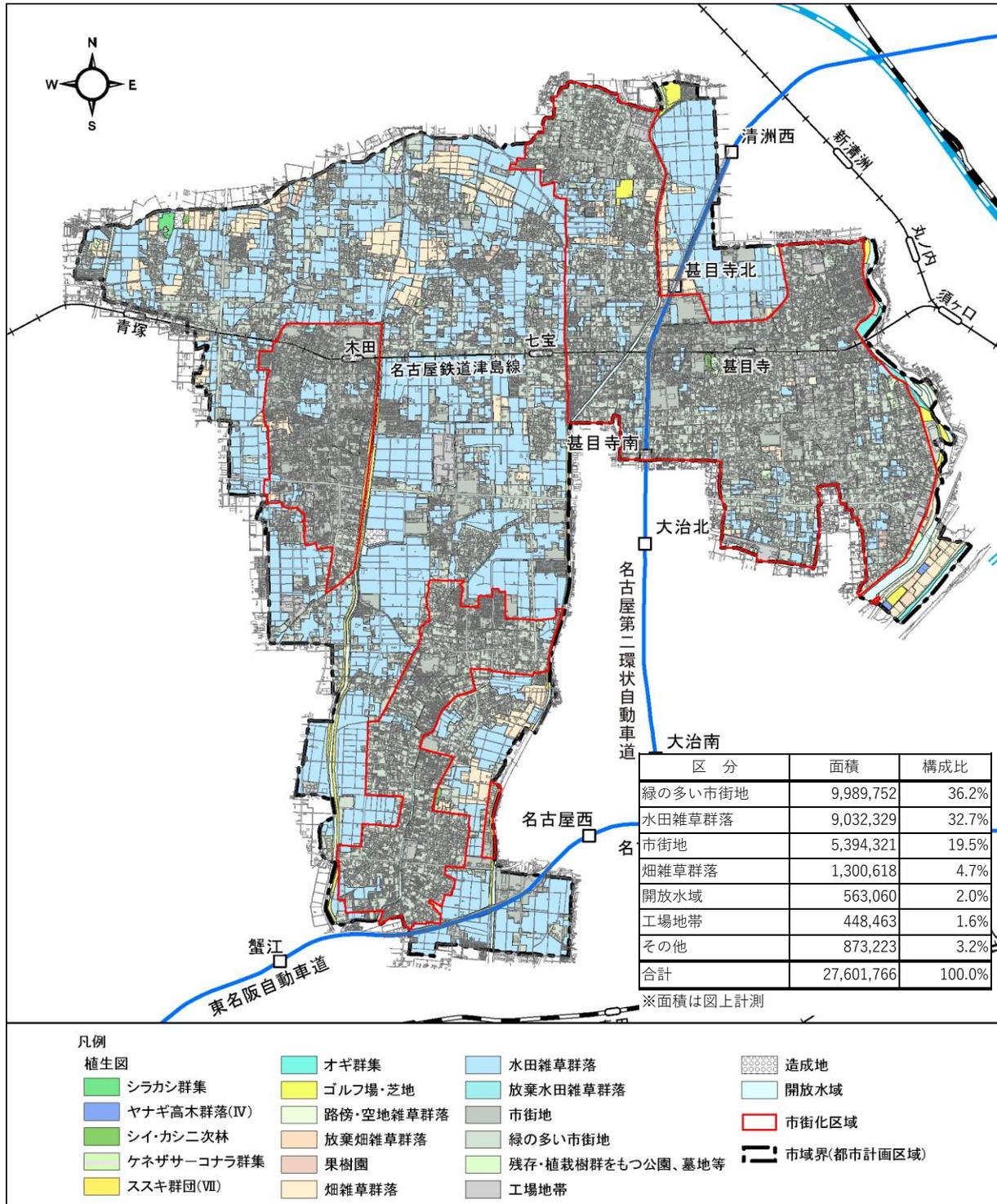
■ 農地の分布

資料：あま市資料

②植生

本市の植生は緑の多い市街地、水田雑草群落及び市街地が市域の約9割を占めています。

また、市街化区域内の大部分を緑の多い市街地及び市街地が占めている一方、市街化調整区域では水田雑草群落や緑の多い市街地、市街地、畑雑草群落が分布しています。



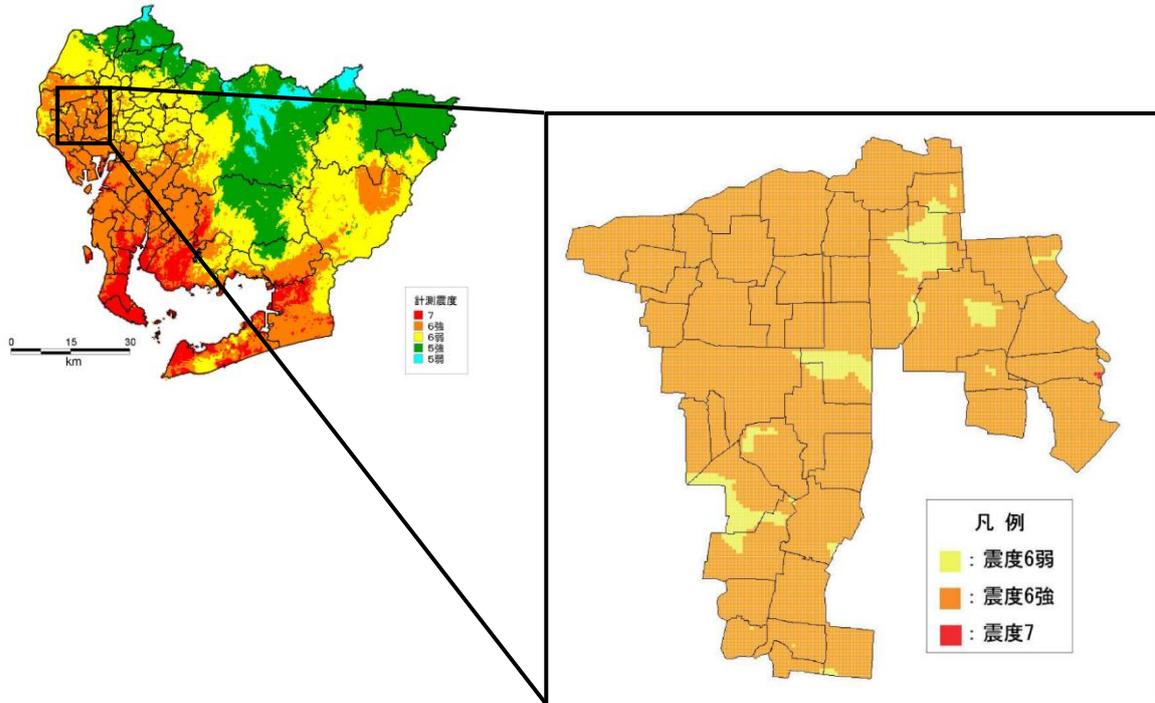
■植生の分布

資料：「1/25,000 植生図 GIS データ (蟹江、清須)」(環境省生物多様性センター)

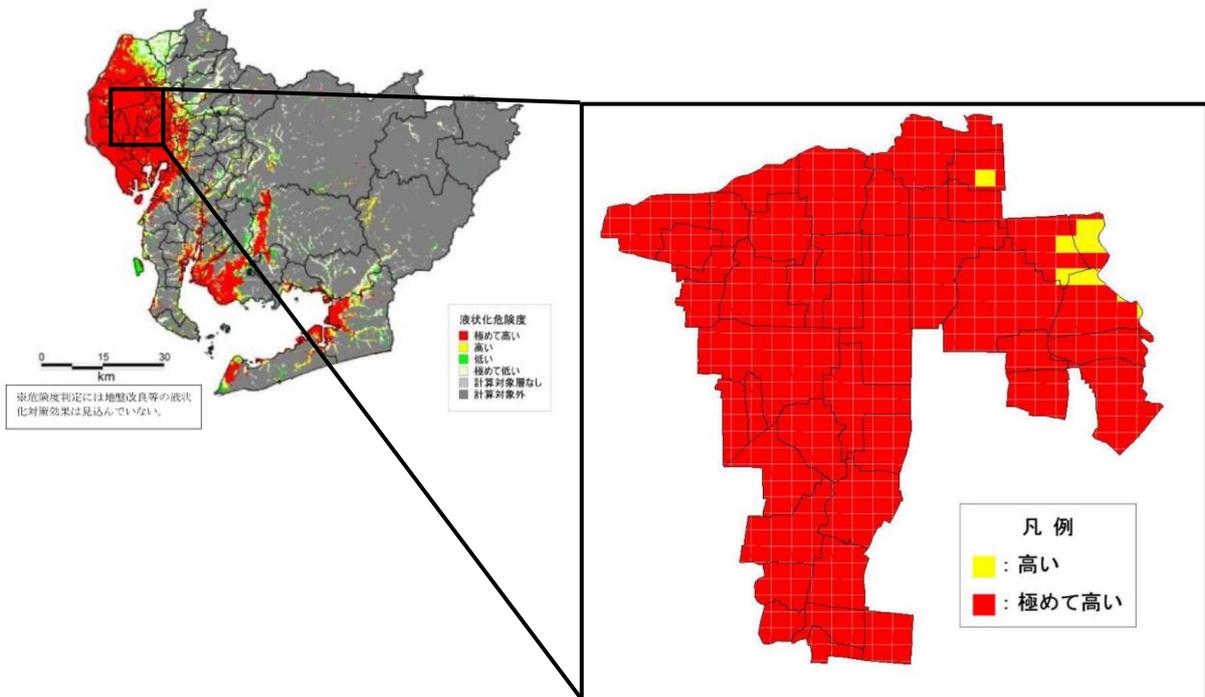
(9) 防災・減災

①地震による災害危険性

愛知県から公表された「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書」によると、南海トラフ地震に係る被害想定として、市内の大部分が震度6強となっています。また、液状化の危険度としては、市内の大部分が「極めて高い」とされています。



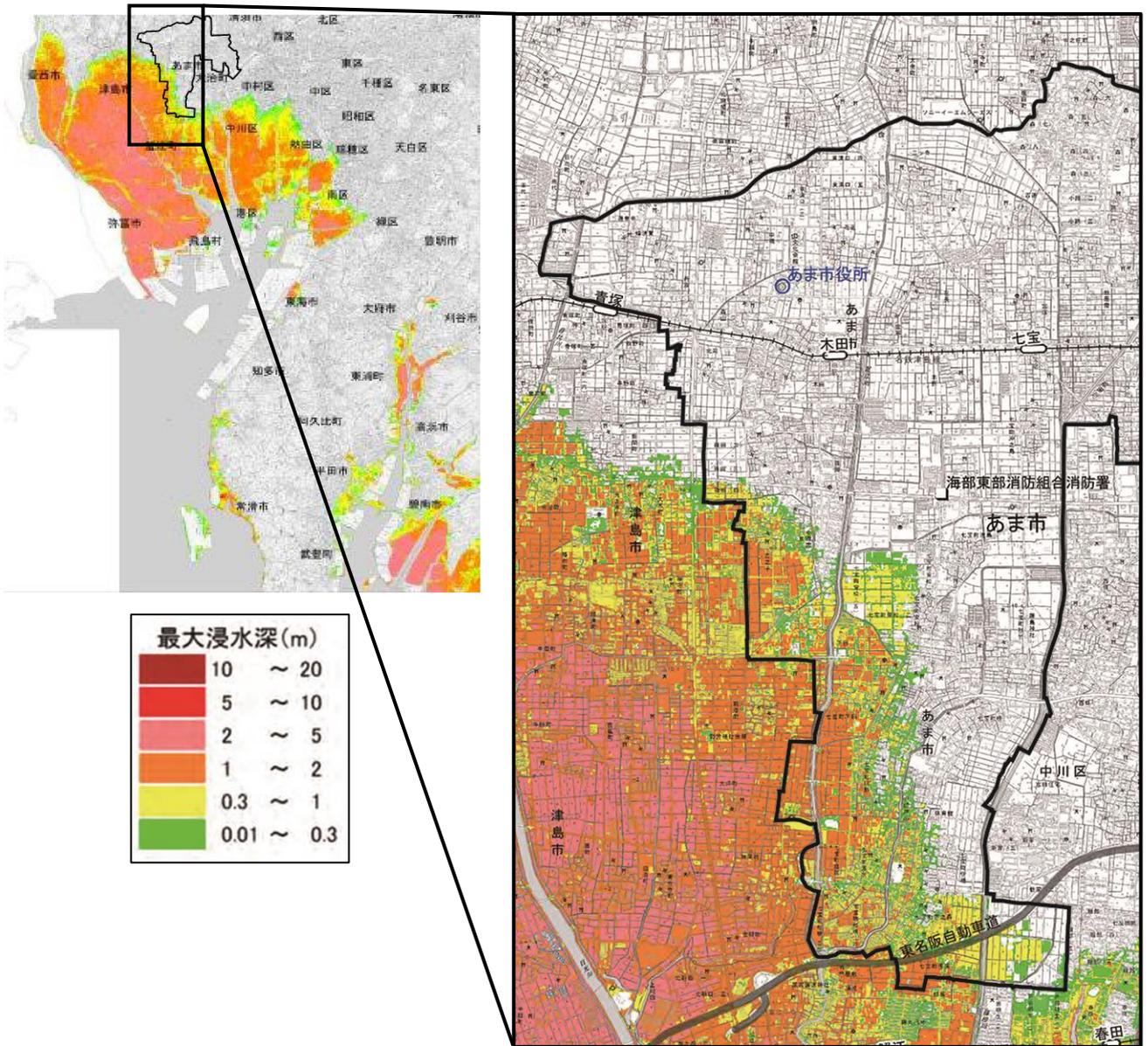
■震度分布（「理論上最大想定モデル」による想定）



■液状化危険度（「理論上最大想定モデル」による想定）

資料：「平成 23～25 年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等 被害予測調査結果」
（愛知県防災会議地震部会 平成 26 年 5 月）

また、地震による津波としては、市域南西部に到達すると想定されています。
 市域に到達する津波の浸水深は、最大で1～2mと想定されています。



■津波浸水想定（「最大クラスの津波」による想定）

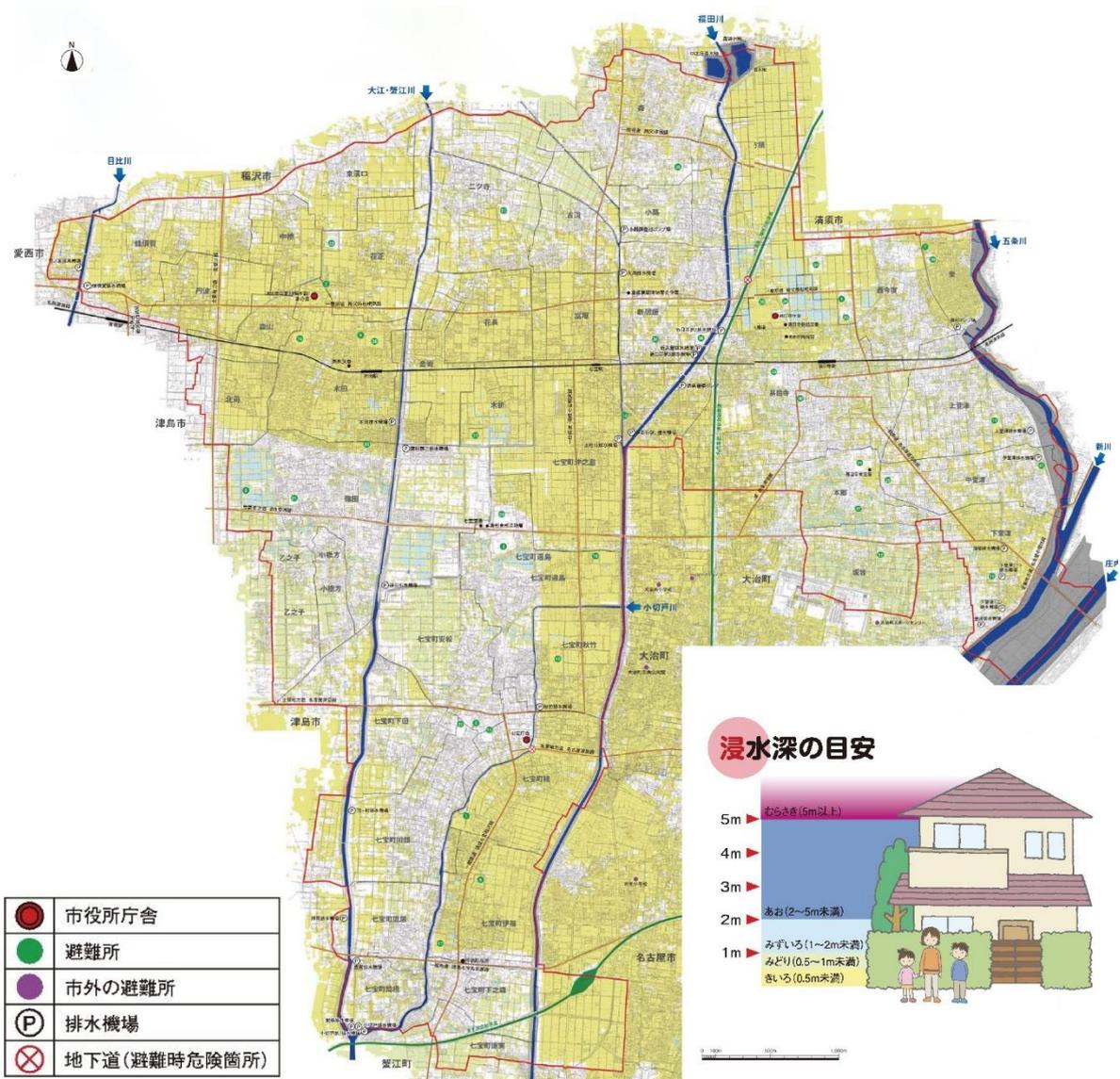
資料：「愛知県津波浸水想定」を加工

②豪雨等による災害危険性

本市では大雨によって、水路や側溝などで雨水を排水することができなくなった場合、市域のほぼ全域で「内水はん濫」の発生が想定されており、内水はん濫が発生した場合の浸水深は最大で1 m未満と想定されています。

＜内水はん濫とは＞

大雨によって、水路や側溝などで雨水を排水することができず、あふれ出す洪水を「内水はん濫」といいます。



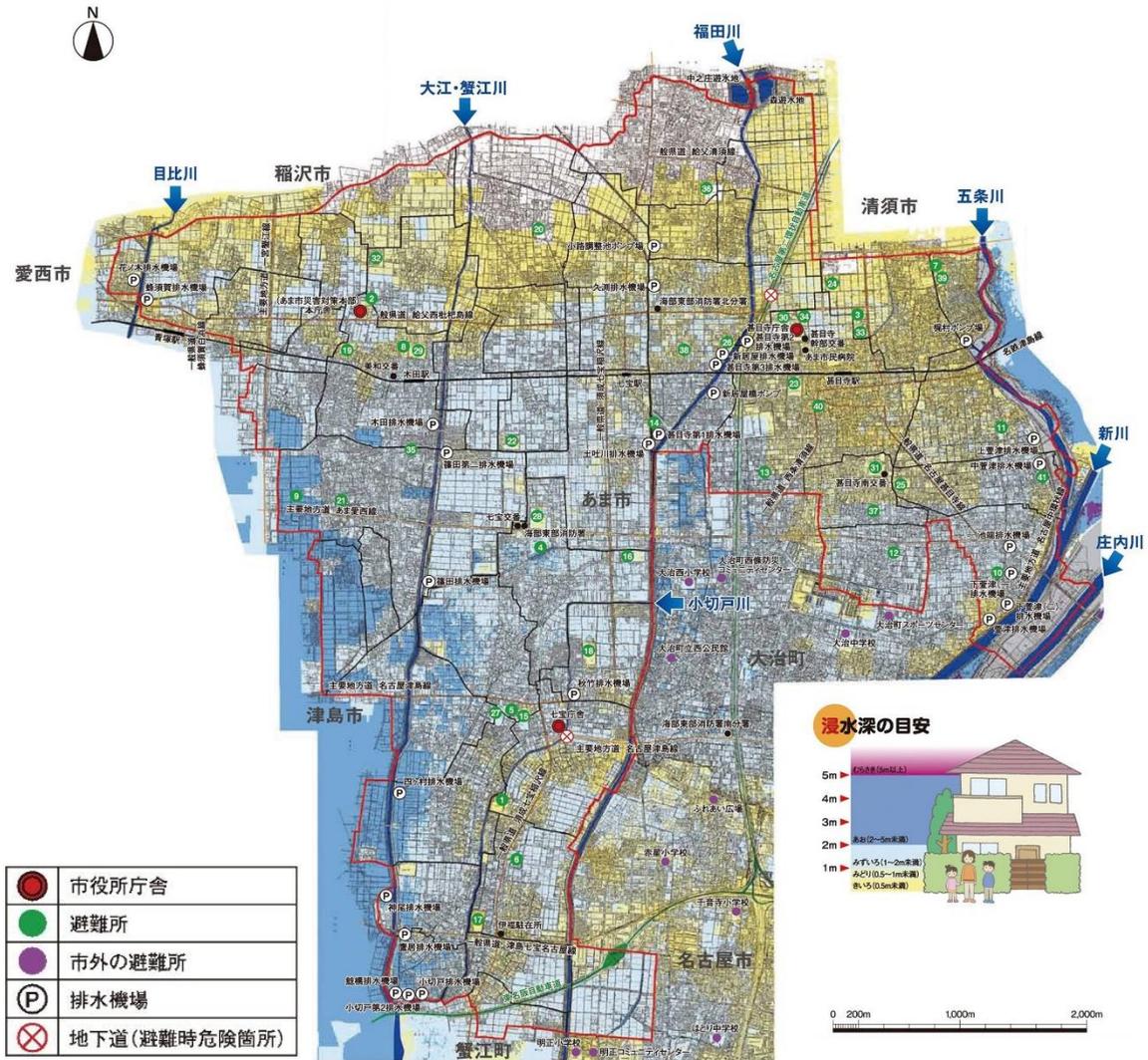
■内水ハザードマップ

資料：あま市公式ウェブサイト

また、堤防の決壊や河川からあふれた水による外水はん濫も同様に、市域のほぼ全域で発生することが想定されます。特に、市域中央部付近及び津島市との市境付近では想定される浸水深が2～5mとなっています。

＜外水はん濫とは＞

堤防の決壊や河川からあふれた水によって発生する洪水を「外水はん濫」といいます。



■外水ハザードマップ

資料：あま市公式ウェブサイト

③防災・減災に向けた取組み・活動

本市では、安全・安心な都市づくりを推進するため、様々な防災・減災に向けた取組みを進めてきました。

1) 自主防災会の活動

本市では、各地区単位で組織される自主防災会等により、毎年地域の防災訓練が行われており、様々な訓練（消火体験や炊き出しなど）を体験することができます。



■ 自主防災会の活動の様子

2) 民間事業者等との連携による防災・減災力の強化

本市では、行政と市民による防災・減災対策の推進に限らず、様々な分野の事業者等と連携しながら防災・減災力を強化するため、平成22（2010）年3月の愛知県防災ヘリコプター支援協定（愛知県との協定）の締結を機に、各種災害協定を締結しています。令和2（2020）年3月時点で51の災害協定を締結しています。

3) 災害時の情報発信の推進

近年、地震、集中豪雨、ゲリラ豪雨などの災害が多く発生していることから、本市では一人でも多くの市民の安全を守るため、災害情報や避難所開設情報等を配信する「あま市防災情報メール」を運営しています。

また、諸事情により防災情報メールを受け取ることができない方を対象に、固定電話で防災情報をお知らせするシステム（要登録）を導入しています。

(10) 都市経営

①歳入

本市の平成 22 (2010) 年の市税収入額は約 100 億円で、直近 10 年間の最低額でしたが、その後増加傾向にあり、平成 30 (2018) 年の市税収入額は 110 億円となっています。

今後の市税収入額は、生産年齢人口の減少が予測されているものの、110 億円前後で横ばいが続くと思定されます。



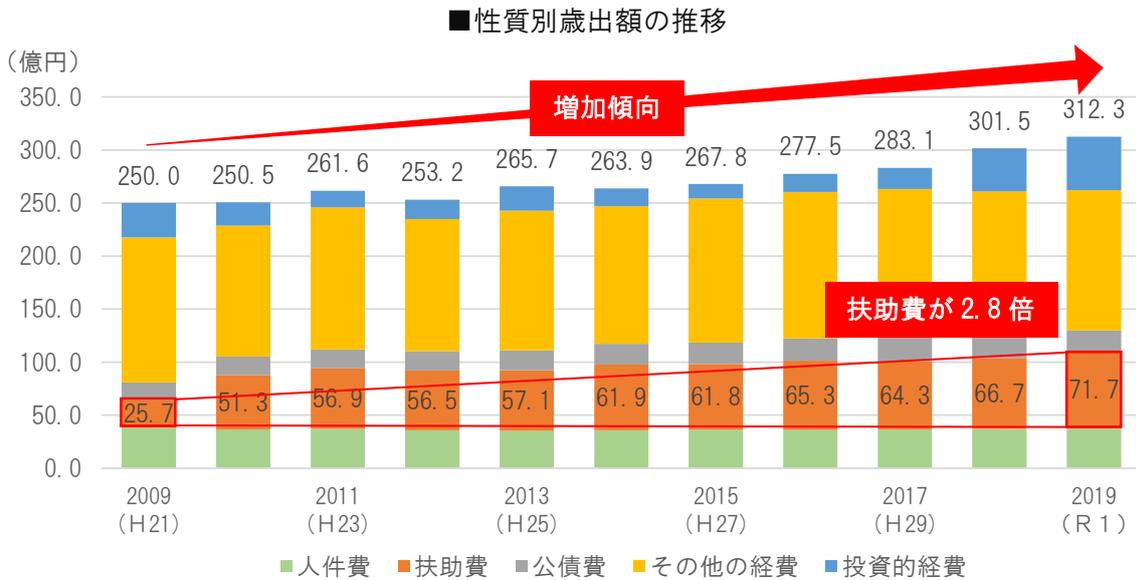
資料：あま市決算カード、中期財政計画（令和元（2019）年ローリング版）

※中期財政計画の見直しにより、今後記載内容を更新予定。

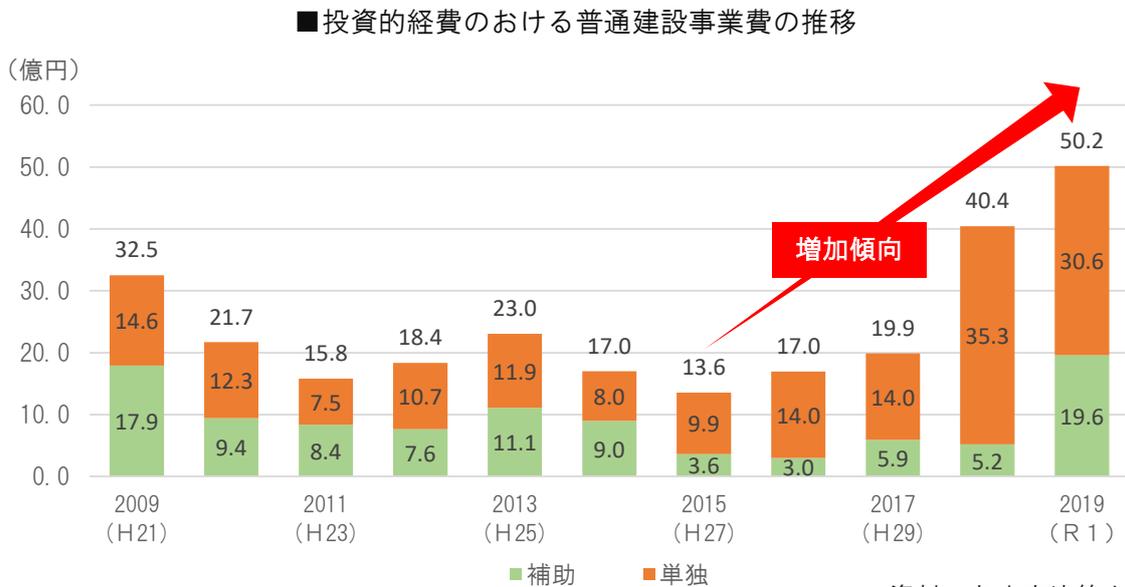
②歳出

本市の歳出額は、ここ10年間で約250億円から約310億円へと約60億円増加しています。これは、高齢化の進行に伴い扶助費が増加していることが一因だと考えられます。

また、投資的経費における普通建設事業費も増加傾向にあり、今後も増加が続くことが推測されます。



資料：あま市決算カード

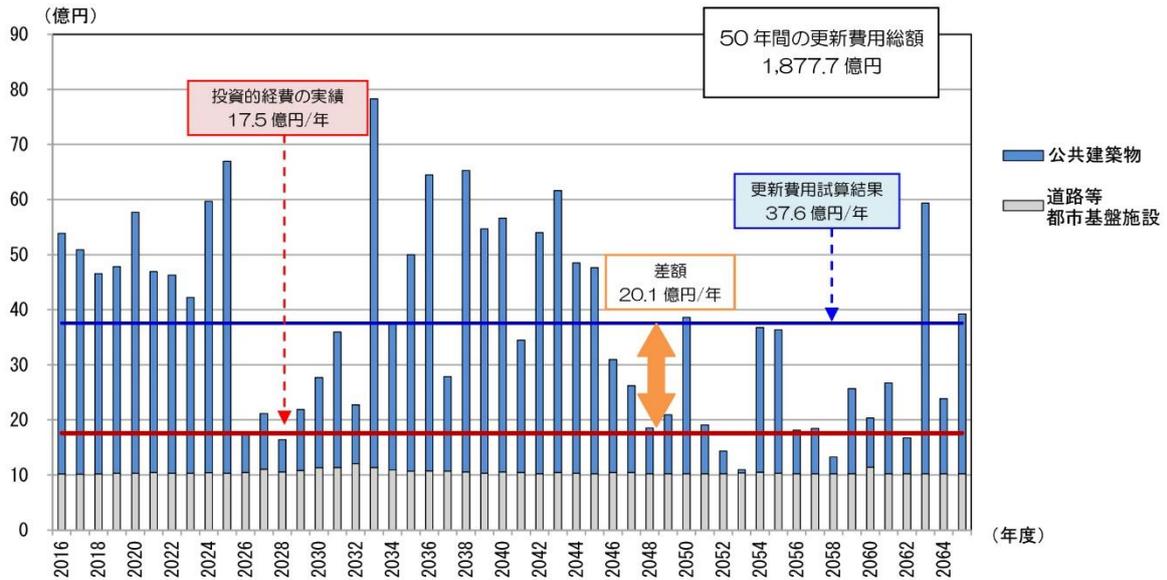


資料：あま市決算カード

③公共施設・インフラ維持管理費

本市の投資的経費は、平成 23（2011）年から平成 27（2015）年の平均で約 17.5 億円となっています。一方、令和 47（2065）年までの 50 年間の公共建築物及び道路等都市基盤施設の更新費用総額は約 1,877.7 億円、年平均で約 37.6 億円と近年の投資的経費の実績を大きく上回ることが推測されます。

■更新費用の将来見込み（公共建築物＋道路等都市基盤施設）



資料：あま市公共施設等総合管理計画（平成 29（2017）年 3 月）

(11) 市民協働

本市では市民や地域組織、行政など、まちづくりに関わる主体が互いに連携・協働しながらまちづくりを推進するため、様々な取組みを実施しています。

① 「あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例」の制定

本市では、平成24(2012)年4月1日より、地域の力を結集しパートナーシップによるまちづくりの推進に向けて、「あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例」を制定しました。

この条例では、市民や地域組織、市民活動団体、事業者及び行政が相互に連携・協力してまちづくりに取り組むための基本的なルールなどを定めています。



■あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例 リーフレット（抜粋）

資料：あま市公式ウェブサイト

【児童の登下校を見守るスクールガード】



【あま市530（ゴミゼロ）運動】



■パートナーシップによるまちづくりの取組み事例

資料：あま市公式ウェブサイト

②あま市市民活動センター「あまテラス」

あま市市民活動センター「あまテラス」とは、あま市で暮らす全ての人たちの間に立ち、みんなでまちを変えていく「協働のまちづくり」を進める事業のことです。ここでは、まちづくりに関する情報発信や各種イベント・講座の開催の他、子育てや食育、伝統文化継承など様々な分野で活動する市民活動団体等をサポートしています。



あまテラス内での活動
(活動写真など)

資料：「あま市みんなでまちづくり 市民活動協働ガイドブック」
(あま市、第2期まちづくり委員会)

令和3（2021）年1月末時点では、112の市民活動団体があまテラスに登録しており、それぞれの団体が活発に市民活動を実施しています。

■あまテラスに登録している市民活動団体

登録分野	団体数	登録分野	団体数
①健康・福祉	18 団体	⑥環境	5 団体
②子ども・子育て	18 団体	⑦防災・防犯	7 団体
③文化・レクリエーション	7 団体	⑧まちづくり	8 団体
④芸術	12 団体	⑨その他	6 団体
⑤スポーツ	3 団体	⑩高齢者サロン・寿会・地域 コミュニティ	28 団体
登録団体合計			112 団体

資料：あまテラスホームページ

② あま市まちづくり委員会

平成24（2012）年6月より、本市が掲げる「パートナーシップによるまちづくり」を推進するため、様々な分野の市民活動団体から構成される「あま市まちづくり委員会」を設立し、まちづくりを推進するための取組みや方策などを協議しています。

■あま市まちづくり委員会の活動

期・年		活動実績
第1期	H24・25年 (2012・2013)年	「あま市市民活動センター設置・運営に関する提言書」の提出
第2期	H26・27年 (2014・2015)年	「あま市みんなでまちづくり市民活動協働ガイドブック」の作成
第3期	H28・29年 (2016・2017)年	「協働の裾野を広げる取組一友だちの輪でつながる協働」の実施
第4期	H30・R1年 (2018・2019)年	小学校3年生と5年生を対象とした「市民活動・市民協働のガイドブックジュニア版」及び「ヤング版」、教員向けに「協働までの道しるべ」の作成

資料：令和2（2020）年度第1回あま市まちづくり委員会 資料2

まちづくり委員会の活動風景1

まちづくり委員会の活動風景2

■あま市まちづくり委員会の活動の様子

資料：あま市まちづくり委員会

④木田駅周辺まちづくり協議会

木田駅周辺の地域の活力向上及び（都）木田駅前線沿線におけるにぎわい創出に向けた取組みを検討する協議会として、「木田駅周辺まちづくり協議会」を設立し、ワークショップ等を通して地域の資源発掘やソフト事業の検討を実施しています。



■木田駅周辺まちづくり協議会の活動の様子

資料：あま市資料

(12) 本市の都市づくりに関する市民意識調査

都市計画マスタープランの改定にあたり、市民の意見や要望をプランに反映させるため、市民意識調査を実施しました。

①調査の概要

多様な世代から意見を聴取するため、郵送方式にて実施しました。

■調査の概要

項目	内容
調査地域	あま市全域
調査対象者	市内にお住まいの満18歳以上の市民3,000人 (住民基本台帳より無作為抽出)
調査期間	令和2(2020)年 9月17日(木)～9月30日(水)
調査方法	郵送による配布・回収
質問概要	・属性 ・今後の居留意向 ・市のイメージ ・まちづくりに対する満足度、重要度 ・日常生活と交通手段 ・まちづくりの方向性 ・地域の誇り・魅力 ・地域に必要な施設 ・まちづくりへの参加意向

③ 回収率

3,000人に対してアンケート調査票を配付し、1,377人(45.9%)の方からご回答いただきました。

■回収率

項目	郵送方式
配付対象者	3,000人
回答者数(N)	1,377人
回収率	45.9%

※次頁以降、「回答者数=N」と表記します。